上野国府等範囲内容確認調査報告書XI

推定 上野国府

～令和3年度調査報告～

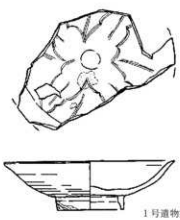
2023.3

前橋市教育委員会

上野国府等範囲内容確認調査報告書XI
推定 上野国府
～令和3年度調査報告～
前橋市教育委員会

推定上野国府

～令和３年度調査報告～



１号遺物集中出土白磁

２０２３.３

前橋市教育委員会

1　75トレンチから榛名山を望む（南東から）

2　75トレンチ　1号遺物集中全景（上が西）

3　75トレンチ全景（上が北）

はじめに

前橋市の総社・元総社地区周辺は、宝塔山古墳や蛇穴山古墳をはじめ山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺などの諸施設が立ち並ぶ古墳時代から律令期にかけての上野国の中枢地域と考えられ、上野国府もその一角にあったと推定されています。

国府とは、律令制の下に各国ごとに置かれた国司の役所で、特に上野国府は平安時代の中頃に起きた平将門の乱の舞台となるなど、記録にも度々その名前が登場します。しかしながら、その中心施設の国庁の位置や、国府域の範囲など、その内容については、詳しいことが分かっていません。

この問題を解決し、後世にわたり保存・活用するための基礎的な資料を得るために文化庁、群馬県の指導を受けつつ、「上野国府等調査委員会」において毎回検討を繰り返しながら、平成23年度から継続的な確認調査を行っております。あれから10年が経過し調査成果が積み重なる一方で、新たな課題も生まれました。そうした状況の中で、さらなる調査が必要なことから、調査計画をさらに５ヵ年延長する運びとなりました。

今回、上梓する報告書は、その第３期の１ヵ年目の調査内容をまとめたものです。令和３年度は、令和２年度に発掘調査した場所の隣接地において広い面積の調査を実施することができました。まさに、令和２年度調査の続編とも言うべき内容となっています。追い求めている古代の役所に直接的に関係する遺構の確認には至りませんでしたが、平安時代の上野国で政治を司っていた役人達の生活を髣髴とさせる遺構の検出が相次ぎました。こうした遺構の調査・検討も上野国府の解明の上で非常に重要であると考えております。

最後に、本事業の推進にあたり、国・県・市の関係各位のご理解とご協力に対して深く感謝する次第です。また、地元の元総社地区各自治会をはじめ土地所有者の皆さんからも惜しみない協力をいただくことができましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和５年３月

前橋市教育委員会

教育長　吉　川　真由美

例　　言

1　本報告書は、上野国府等範囲内容確認調査計画に基づき、第３次５ヵ年の調査計画（令和３～令和７年度）の１年次調査として、令和３年度に実施した発掘調査の報告書である。

2　遺跡は群馬県前橋市元総社町2105-１ほかに所在する。

3　発掘調査は、上野国府等調査委員会の指導のもと前橋市教育委員会が実施した。調査の要項は以下のとおりである。

①発掘調査期間　　令和３年５月31日～令和４年３月14日

②整理・報告書作成期間　　令和４年３月15日～令和４年３月31日

③調査組織（令和３年度）

上野国府等調査委員会

⑴　委員会

委員長　梅澤重昭（元前橋市文化財調査委員）

副委員長　須田　勉（元国士舘大学文学部教授）

委　　員　林部　均（国立歴史民俗博物館考古研究系教授）、前沢和之（群馬県地域文化研究協議会会長）、右島和夫（群馬県文化財保護審議会委員・群馬県立歴史博物館特別館長）、松田　猛（一般財団法人群馬県地域文化振興会常務理事）

幹　　事　小原俊行（群馬県地域創生部文化財保護課文化財活用係主任）、今域未知（群馬県地域創生部文化財保護課埋蔵文化財係主事）、藤井一幸（前橋市教育委員会事務局教育次長）、上野克巳（前橋市教育委員会事務局文化財保護課長）

顧　　問　吉川真由美（前橋市教育委員会教育長）

指　　導　文化庁文化財部記念物課文化財調査官、植松啓祐（群馬県地域創生部文化財保護課長）

⑵　調査部会

幹　　事　田中広明（公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部部長）、出浦　崇（伊勢崎市教育部文化財保護課係長）

⑶　事務局（担当課　前橋市教育委員会事務局文化財保護課）

課長(幹事)　上野克巳　　文化財保護課専門員　梅澤克典

係　　長　神宮　聡

係　　員　阿久澤智和、寺内勝彦、池田史人、齋藤　颯

④発掘・整理担当者　　阿久澤智和

4　本書の編集は阿久澤が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木麻耶、阿久澤陽子、市村政夫、碓井俊夫、桑原和衛、小池　賢、小林千恵美、代田綾子、田村ひとみ、奈良啓子、町田妙子、松岡利雄、

6　調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導・御協力があった。

群馬県地域創生部文化財保護課、前橋市都市計画部区画整理課

出浦　崇、梅澤重昭、大橋泰夫、須田　勉、田中広明、永井智教、林部　均、前沢和之、松田　猛、右島和夫

7　発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会事務局文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に建設省国土地理院発行の１:200,000地形図（宇都宮、長野）、１:25,000地形図（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は、3A147である。略称の後に枝番を付し、トレンチ番号を示した。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳～平安時代の竪穴建物跡　　B…建物跡（掘立柱建物・礎石建物等）　　W…溝跡

T…竪穴状遺構　　A…道路跡（遺構）　　I…井戸跡　　D…土坑　　P…ピット・柱穴・貯蔵穴

O…落ち込み

5　遺構・遺物の実測図の基本的な縮尺は次のとおりである。ただし、図の配置上、他の縮尺を使用したほうが妥当な場合は、その他の縮尺を適宜使用した。

遺構　　全体図・遺構配置図…１：200　遺構断面図…１：60　竪穴建物跡等…１：60（竈…１：30）

　　溝…１：60　土坑・ピット等…１：60

遺物　　１/４、１/２

6　計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7　遺物観察表については、以下のとおり記述した。

①層位は遺構出土の場合、「床直」・「底面」：遺構底面より10cm未満の層位からの検出、「覆土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。

②口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。

③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、基本的に極良・良好・不良の三段階とした。ただし、須恵器について酸化焔焼成によるものは「酸化焔」と記載した。

⑤色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』（小山・竹原1967）によった。

8　遺構平面図の－－－－は推定線を表し、－･－･－は竪穴面の範囲を表す。

9　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。特別な場合は図版ごとに凡例を設けた。

遺構平面図　　粘土分布…　　炭化物分布…　　焼土分布…　　灰分布…

遺構断面図　　構築面…　　灰分布…

遺物実測図　　須恵器断面…　　陶器断面…　　煤付着面…

　　陶器表面…　　黒色処理…

10　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　　次

1　遺跡の立地と環境……1
(1)　遺跡の立地……1
(2)　歴史的環境……1

2　調査に至る経緯……5
(1)　調査のあらまし……5
(2)　これまでの調査成果……5
(3)　令和３年度調査……6

3　調査方法と経過……7
(1)　調査方法……7
(2)　調査経過……8

4　基本層序……9

5　遺構と遺物……9
(1)　各トレンチの概要……9
(2)　各トレンチの検出遺構……16

6　まとめ……53
(1)　令和３年度調査から見る宮鍋神社周辺の様相……53
(2)　10世紀以降の遺構・遺物について……55
(3)　まとめ……58

挿図目次

Fig. 1　推定上野国府位置図 …… 2
Fig. 2　周辺遺跡 …… 4
Fig. 3　２m小グリッドの呼称 …… 7
Fig. 4　各トレンチ土層柱状図 …… 9
Fig. 5　グリッド設定図とトレンチ位置図 …… 10
Fig. 6　各トレンチ詳細位置図 …… 11
Fig. 7　各トレンチ全体図(1) …… 12
Fig. 8　各トレンチ全体図(2) …… 13
Fig. 9　各トレンチ全体図(3) …… 14
Fig.10　各トレンチ全体図(4) …… 15
Fig.11　75トレンチ各遺構(1) …… 22
Fig.12　75トレンチ各遺構(2) …… 23
Fig.13　75トレンチ各遺構(3) …… 24
Fig.14　75トレンチ各遺構(4) …… 25
Fig.15　75トレンチ各遺構(5) …… 26
Fig.16　75トレンチ各遺構(6) …… 27
Fig.17　75トレンチ各遺構(7) …… 28
Fig.18　75トレンチ各遺構(8) …… 29
Fig.19　75トレンチ各遺構(9) …… 30
Fig.20　75トレンチ各遺構⑩ …… 31
Fig.21　75トレンチ各遺構⑪ …… 32
Fig.22　75トレンチ各遺構⑫ …… 33
Fig.23　75トレンチ各遺構⑬ …… 34
Fig.24　75トレンチ各遺構⑭ …… 35
Fig.25　76・77トレンチ各遺構 …… 36
Fig.26　遺物実測図（75トレンチ①） …… 37
Fig.27　遺物実測図（75トレンチ②） …… 38
Fig.28　遺物実測図（75トレンチ③） …… 39
Fig.29　遺物実測図（75トレンチ④） …… 40
Fig.30　遺物実測図（75トレンチ⑤） …… 41
Fig.31　遺物実測図（75トレンチ⑥） …… 42
Fig.32　遺物実測図（75トレンチ⑦） …… 43
Fig.33　宮鍋神社周辺の様相 …… 54
Fig.34　床に被熱スポットを持つ竪穴建物跡 …… 55
Fig.35　１号遺物集中の遺物 …… 56
Fig.36　土師質土器高坏と鉢 …… 57

表目次

Tab. 1　年度別の調査目的 …… 5
Tab. 2　調査目的別の主な成果 …… 6
Tab. 3　各調査トレンチの面積と調査目的 …… 7
Tab. 4　調査経過図 …… 8
Tab. 5　遺構計測表 …… 44
Tab. 6　遺物観察表 …… 46

図版目次

【巻頭図版】
1　75トレンチから榛名山を望む（南東から）
2　75トレンチ１号遺物集中全景（上が西）
3　75トレンチ全景（上が北）

【遺構写真】
PL. 1－1　75トレ As-B混入土分布状態（北から）
2　75トレンチ23号土坑全景（東から）
3　75トレンチ24号土坑全景（東から）
4　75トレンチ28号土坑全景（北から）
5　75トレンチ７号井戸跡全景（北から）
6　75トレンチ２号溝跡全景（北から）

PL. 2－1　75トレ２号溝跡南端部土層堆積（南東から）
2　75トレ33号土坑全景（東から）
3　75トレ31号土坑土層堆積（南西から）
4　75トレ33号土坑土層堆積（北西から）
5　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態①（北から）
6　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態②（西から）
7　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態③（東から）

PL. 3－1　75トレンチ調査区北半全景（上が北）
2　75トレンチ２号竪穴建物跡カマド（西から）
3　75トレンチ12号竪穴建物跡カマド（西から）
4　75トレンチ12号竪穴建物跡P_1（北から）
5　75トレンチ13号竪穴建物跡カマド（西から）

PL. 4－1　75トレンチ13号竪穴建物跡P_3・P_4（北西から）
2　75トレンチ14号竪穴建物跡P_1（北から）
3　75トレンチ14号竪穴建物跡炉跡（北から）
4　75トレンチ16号竪穴建物跡カマド（西から）
5　75トレンチ16号竪穴建物跡P_1（東から）
6　75トレンチ67号ピット全景（南から）
7　75トレンチ10号溝跡全景（東から）

PL. 5－1　75トレンチ11号溝跡全景（東から）

2　75トレンチ12号溝跡全景（北から）
3　75トレンチ５号井戸跡全景（東から）
4　75トレンチ６号井戸跡全景（東から）

PL.6－1　75トレンチ６号井戸跡土層堆積状態（南から）
2　75トレンチ26号土坑全景（北から）
3　75トレンチ29号土坑全景（北西から）
4　75トレンチ30号土坑遺物出土状態（西から）
5　75トレンチ調査区南半全景（上が北）

PL.7－1　75トレンチ４号竪穴建物跡全景（南から）
2　75トレ18号・20号竪穴建物跡全景（西から）
3　75トレ18号・19号・25竪穴建物跡全景（西から）

PL.8－1　75トレ20号・22号竪穴建物跡全景（西から）
2　75トレ18号竪穴建物跡床面焼土（南から）
3　75トレ19号竪穴建物跡炉跡（西から）
4　75トレ20号竪穴建物跡床面（東から）

PL.9－1　75トレ20号竪穴建物跡P_1全景（西から）
2　75トレ21号竪穴建物跡調査状況（西から）
3　75トレ21号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）
4　75トレ21号竪穴建物跡のカマドの痕跡（西から）
5　75トレ23号・24号竪穴建物跡全景（西から）
6　75トレ22号竪穴建物跡P_1全景（西から）
7　75トレンチ27号竪穴建物跡全景（西から）

PL.10－1　75トレンチ27号竪穴建物跡遺物出土状態（西から）
2　75トレンチ65・66号ピット全景（北から）
3　75トレ１号道路跡全景（北から）
4　76トレンチ全景（西から）
5　77トレンチ全景（西から）

【遺物写真】
PL.11　75トレンチの出土遺物(1)
PL.12　75トレンチの出土遺物(2)
PL.13　75トレンチの出土遺物(3)

1　遺跡の立地と環境

(1)　遺跡の立地

前橋市は、関東平野の北西部、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合の間を抜けて関東平野へと至るところに位置する。市域は、その地形や地質の特徴から、西端部・北東部の火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南東部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

上野国府推定地のある元総社地区は、前橋台地から榛名山の山麓地形へと変化する場所に位置している。前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立ち、台地の東部は、旧利根川により形成された広瀬川低地帯と直線的な崖で画されている。台地の中央部は現在利根川が蛇流しているが、利根川の流路は中世以降に現在の広瀬川低地帯から変流したものと推定されている。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、かつては桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

元総社地区は、前橋市街地から利根川を隔てた対岸に位置し、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。上野国府推定地はこれらの幹線道路から奥に入った付近に位置しているが、かつては周囲に田畑も多く存在し養蚕農家が往年のたたずまいを残す静かで落ち着いた環境であったが、近年の区画整理事業の進捗にともない急速な住宅地化・市街地化が進む地域である。

(2)　歴史的環境

本遺跡地周辺には、総社古墳群、山王廃寺、上野国分僧寺・尼寺のほか蒼海城跡など多くの遺跡が存在し、歴史的環境に優れている。また継続して実施されている埋蔵文化財発掘調査によって新しい知見が集積されている。

縄文時代　縄文時代の遺跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡や元総社蒼海遺跡群で前期・中期の集落跡が検出されているほか、元総社蒼海遺跡群（９）で晩期の住居が検出されている。

弥生時代　弥生時代の遺跡は、水田・集落跡等が検出された日高遺跡のほか、新保遺跡や新保田中村前遺跡など、染谷川沿いで拠点的な集落が営まれるが、現在前橋市域となっている範囲では、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけで少ない。

古墳時代から奈良・平安時代　古墳時代の集落については４世紀代と６世紀代を中心に展開しており、大屋敷遺跡や元総社蒼海遺跡群で集落が確認されている。元総社蒼海遺跡群では、牛池川沿いの低地で古墳時代の水田も確認されているほか、墓域や祭祀跡も確認されており、同時代の集落・生産域・墓域がそれぞれ展開していたことがうかがえる。

これらの集落を支配した豪族のものと考えられる古墳として、総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を構成する主な古墳としては、推定される築造年代の古い順から、大型の前方後円墳である遠見山古墳、上野国地域でも導入期の横穴式石室をもつ王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式石室が築造されている前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室と家形石棺をもつ方墳の愛宕山古墳、上野国地域における古墳の終末期に位置づけられている方墳の宝塔山古墳と蛇穴山古墳が存在する。

また、宝塔山古墳の南西約500mには山王廃寺が存在する。山王廃寺については、平成18年度からの５ヵ年計画で実施した範囲内容確認調査の結果、約80m四方を回廊で囲み、講堂・金堂・塔が法起寺様式の伽藍配置であることが判明した。山王廃寺の特徴である石製の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等は、宝塔山古墳の石棺や、蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されており、このことから、この寺院を建立した氏族と宝塔山古

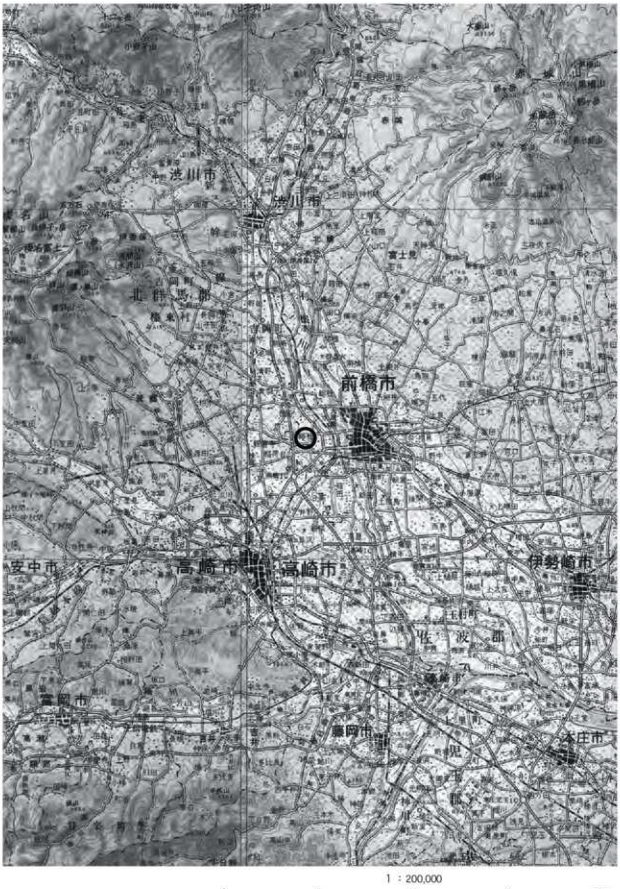


Fig. 1　推定上野国府位置図

墳・蛇穴山古墳の被葬者は同一の氏族と考えられている。

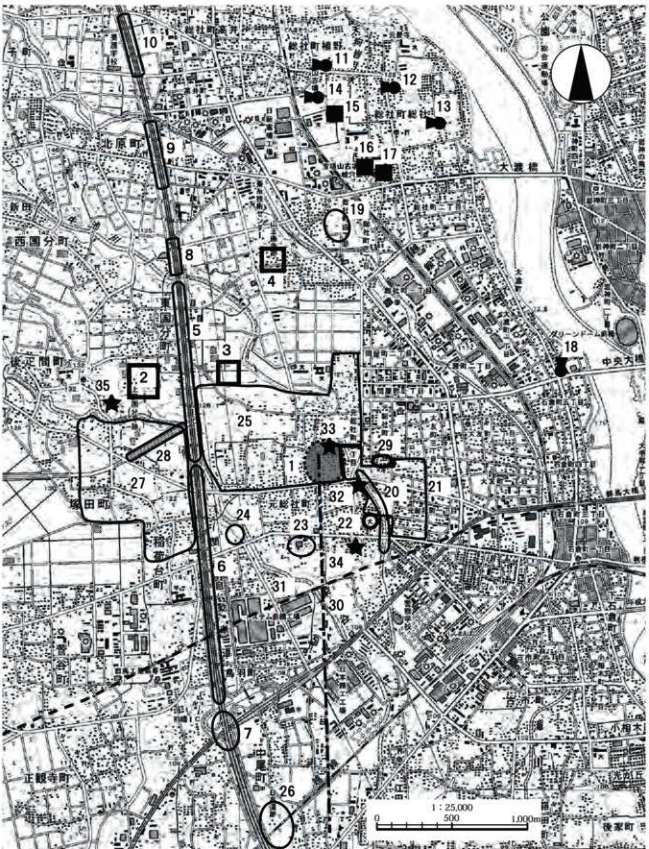
また、山王廃寺の下層には北西に主軸をもつ基壇建物や掘立柱建物跡が検出されているが、これらの建物群についての評価は「車（群馬）評家」等諸説あるが、寺院の変遷を考える上で重要なものとなっている。

奈良・平安時代になると、上野国分僧寺、上野国分尼寺が建立されるなど、本地域は古代の政治・経済・文化の中心地としての様相を呈する。大正15年に国指定史跡となった上野国分僧寺は昭和55年から本格的な調査を実施し、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認された。また上野国分尼寺は、昭和44・45年の調査で伽藍配置が推定できるようになり、さらに平成12年に実施された寺域確認調査によって東南隅と南西隅の築垣とそれに平行する溝跡や道路状遺構が確認された。上野国分僧寺、上野国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

なお、元総社地域には総社神社が鎮座するほか、上野国府が存在したことが推定されているが、掘立柱建物跡や掘込地業（礎石建物跡）が元総社蒼海遺跡群、元総社小校庭とその西方で確認されている。これらの建物の性格は明確ではないが、元総社周辺でも分布がスポット的であることから、国府等の官衙関連施設の存在が推定できる。また、これらの各施設の区画溝と推定される古代の溝跡が検出されている。この遺構は関泉樋遺跡・元総社明神遺跡・元総社蒼海遺跡群等で確認されており、上野国府等範囲内容確認調査の平成23年度調査（１次）でも確認されている。この区画溝は覆土上位に浅間Ｂ軽石が堆積するという時期的な特徴をもち、規模も近似することや、確認された地点が連続的なことから、一連のものと考えられる区画溝も存在する。その他に、国府推定域でも西に位置する鳥羽遺跡では、神社遺構とされる周囲に方形の溝をもつ掘立柱建物が存在するほか、大規模な工房跡も確認されている。国府関連の遺物としては、牛池川沿いの元総社明神遺跡Ⅷと元総社寺田遺跡では人形、元総社寺田遺跡では「国厨」や「曹司」などの国府関連施設名が墨書された須恵器が出土している。その他に元総社蒼海遺跡群（26）では「大館」、元総社小学校では「大家」の墨書土器が出土している。その他に、緑釉陶器が染谷川左岸の天神遺跡・弥勒遺跡・元総社蒼海遺跡群の西寄りの調査区で出土するほか、宮鍋神社から元総社小学校にかけての牛池川右岸でも多く出土する。特に、この宮鍋神社から元総社小学校にかけての地域は、高級陶器である白磁のほか、土師質の高坏・「ての字状口縁」の皿の破片、碁石と推定される白・黒の小礫、須恵器甕破片転用の小円盤等の10世紀から11世紀代の特殊な遺物が出土している。

高崎市内の調査や平成28年度上野国府等範囲内容確認調査により、元総社地区の南部にN―64°―Eの方向で東山道駅路国府ルートが存在したことが推定されている。その他に日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を北方へ延長した通称「日高道」も存在する。

中世以後　中世、元総社には蒼海城が築域され、総社長尾氏の居城となっていた。また総社を中心としたこの付近一帯は奈良・平安時代から引き続いて上野国の府中として栄える。蒼海城の築城年代については、伝承では鎌倉時代に千葉上総介常胤により築かれたとされているが詳しいことは分かっていない。ただし、何らかの域郭的なものは存在していたと考えられており、室町時代の永享元年（1429）に長尾景行が城の修築を行っている。蒼海城の特徴は、館のような方形の曲輪が碁盤の目のように配置されている点である、これらの曲輪は「〇〇屋敷」という名称で呼ばれている。なお、蒼海城は、江戸時代に秋元氏が現在の総社の地に総社城を築城して城下町等を移転させたことにより、完全に廃城となったと考えられる。蒼海城は、元総社町蒼海地区の区画整理事業に伴う発掘調査で、堀跡や掘立柱建物跡・井戸が検出されているほか、青白磁梅瓶や青磁・白磁片、穀物臼や茶臼などの石製品などが出土している。その他に、上野国分僧寺・尼寺地域では、寺院跡や土壙墓が検出されている。元総社蒼海遺跡群（5）でも土壙墓がまとまって検出されており、蒼海城の周囲に寺院や墓地が営まれていたと推定される。



1．国府調査重点調査区域　2．上野国分僧寺　3．上野国分尼寺　4．山王廃寺　5．上野国分僧寺・尼寺中間　6．鳥羽遺跡　7．中尾遺跡
8．国分境遺跡　9．北原遺跡　10．下東西遺跡　11．稲荷山古墳　12．大小遺山古墳　13．遠見山古墳　14．総社二子山古墳　15．愛宕山古墳
16．宝塔山古墳　17．蛇穴山古墳　18．王山古墳　19大屋敷遺跡　20．元総社寺田遺跡　21．元総社明神遺跡　22．元総社小学校校庭
23．天神Ⅱ遺跡　24．弥勒Ⅱ遺跡　25．元総社普海遺跡群　26．日高遺跡　27．国府南部遺跡群　28．元総社西川・塚田中原遺跡
29．上野国府調査地点（昭和42年）　30．通称『日高道』　31．推定東山道駅路国府ルート　32．総社神社　33．宮鍋神社　34．釈迦尊寺　35．妙見寺

Fig. 2　周辺遺跡

2　調査に至る経緯

(1)　調査のあらまし

前橋市の元総社・総社地区は6世紀代から中世にかけて上野国の中心地として栄えた地域で、上野国府についても元総社町に推定地を求めている。こうした歴史的環境をふまえ、前橋市教育委員会では元総社・総社地区の歴史遺産を有機的に関連付けた保存・活用を目指し、平成18年度から5年間山王廃寺の範囲内容確認調査を実施し、その伽藍配置を解明することができた。その一方、国府推定地である元総社町蒼海地区では土地区画整理事業の進捗にあわせて発掘調査を継続してきたが、国府関連遺構の検出には至っていなかった。こうした状況の中で上野国府の解明が急務となったことから、平成23年度から5か年計画で上野国府等範囲内容確認調査が実施されるに至った。この平成27年度までの5か年の発掘調査で、元総社小校庭遺跡の1号掘立柱建物跡の再検出のほか、布地業の礎石建物跡の検出など、相応の成果を得ることはできたが目標である国庁の検出には至らなかった。そうしたことから、翌平成28年度から第2期5か年計画を策定し発掘調査を継続した。その成果として、元総社小学校校庭やその西方において掘立柱建物跡の検出数が増加したほか、宮鍋神社周辺では元総社蒼海遺跡群の調査も含めて総地業・布地業の礎石建物跡を複数棟検出することができた。これら礎石建物が規則性をもって配置されていることが考えられることから、宮鍋神社周辺の様相の解明を目的として第3期5ヵ年計画を策定し、上野国府の調査を継続することとなった。令和3年度調査は第3期5か年計画の1年次調査となる。

(2)　これまでの調査成果

第1期1年次の平成23年度から第2次5年次の令和元年度までの調査目的およびその成果の概要をTab.1、Tab.2にまとめた。

Tab.1　年度別の調査目的

	第1期5ヵ年				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
殿小路周辺（A案）	1a～7				
推定蒼海域本丸周辺（B案）					
宮鍋神社周辺（C案）		8～11, 13, 14		27, 28, 33, 34	35～39
阿弥陀寺周辺（D案）					
総社神社・元総社小学校			17～22	30	40, 41
元総社小学校西方		15, 16		31a～32	43, 44
天神地区			(26)		
区画溝	(6)	12	23, 26	29	42
東山道駅路国府ルート関連			24a・24b・25		
上野国分尼寺跡範囲確認					

	第2期5ヵ年				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
殿小路周辺（A案）					
推定蒼海域本丸周辺（B案）		50		66	
宮鍋神社周辺（C案）				63, 64, 65ab	69～74
阿弥陀寺周辺（D案）					
総社神社・元総社小学校	48	51	56, 57, 58		
元総社小学校西方	49	54	55, 59, 60	62	
天神地区	46				
区画溝	47			67, 68	
東山道駅路国府ルート関連	45a, 45b	52, 53			
上野国分尼寺跡範囲確認			61a, 61b		

※カッコ書きのトレンチ№は、副次的な目的

Tab.2　調査目的別の主な成果

調査地点	該当トレンチ	主な調査成果（その他の調査結果含む）
殿小路周辺（A案）	1a,1b,2,3,4,5,6	官衙関連施設の遺構の検出なし。
普海城本丸周辺（B案）	50,（29）,66	特殊な遺物は出土したが官衙関連遺構の検出なし。
宮鍋神社周辺（C案）	7,8,9,10,11,13,14,27,28,33,34,35,36,37,38,39,63,64,65a,65b,69,70,71a,71b,73,74.	礎石建物跡７棟（総地業３棟、布地業４棟）、掘立柱建物跡５棟検出。
阿弥陀寺周辺（D案）	なし。	官衙関連施設の遺構の検出なし。
総社神社・元総社小学校	17,18,19,20,21a,21b,22,30,41,42,48,51,56,57,58	元小校庭で掘立柱建物跡６棟、南北の区画溝跡２条検出。
元総社小学校西方	15,16,31a～d,32,43,44,49,54,55,59,60,62	東西の区画溝１条、掘立柱建物跡11棟検出。
天神地区	（26）,（46）	官衙関連遺構の検出なし。
区画溝	南北溝（北から西へ10度の溝）：12,(6),26,29,40	12・26トレンチ以外で区画溝を検出。
	東西溝（国庁推定地C案南）：47,67,68	別途検出されている区画溝の延伸を検出。
	東西溝（推定国衙域区画溝の南限東西溝）：23	区画溝の検出なし。
東山道駅路国府ルート	24a,24b,25,45a,45b,46,52,53	鳥羽町で２時期の重複する古代の道路跡を検出。
上野国分尼寺跡範囲確認	61a,61b	寺域南区画溝跡を検出。

これまでに実施した調査に、同時進行で行われている区画整理事業で実施した発掘調査の成果を総合すると、礎石建物跡や掘立柱建物跡が検出されているのは、宮鍋神社周辺（国庁推定地C案）、元総社小学校校庭とその西方である。特に、礎石建物跡については、現時点では宮鍋神社周辺のみで検出されている。なお、そうした官衙に関連する建物跡の分布する周辺を中心に、研究史的に「古代の大溝」と呼ばれてきた区画溝跡も点々とであるが連続的に検出されている。なお、研究史的にも推定国府域の南端を通過すると考えられている東山道駅路国府ルートについても、鳥羽町でそれに該当すると考えられる古代の道路跡が検出されたが、染谷川以東での道路跡の検出事例はなく、推定国府域付近でのその位置は不明と言わざるを得ない。

(3)　令和３年度調査

令和３年度は、これまでに実施された範囲内容確認調査や区画整理事業にともなう発掘調査により、宮鍋神社周辺で礎石建物跡・掘立柱建物跡・区画溝の検出が相次いだことから、宮鍋神社周辺にその存在が推定される施設の解明と範囲確認を目的として発掘調査を実施した。

宮鍋神社周辺における官衙関連遺構（礎石建物跡・掘立柱建物跡）の検出（75・76・77トレンチ）

宮鍋神社周辺では、礎石建物跡（総地業・布地業）が７か所、掘立柱建物跡が５か所検出されている。このほかにも同様の遺構の検出が見込まれることから、調査可能な地点において、75から77までのトレンチを設定し確認調査を実施した。

特に75トレンチについては、２棟の礎石建物（布地業）の中間に当たる範囲に広範囲に亘って調査区を設定し、礎石建物の分布の規則性についての解明を目的としている。

3　調査方法と経過

(1)　調査方法

上野国府等範囲内容確認調査のこれまでの調査成果と令和３年度調査の調査目的については第２章で述べたとおりであるが、その目的を達成するために３か所にトレンチを設定し調査を行った。各トレンチの面積および調査目的はTab.　３のとおりで、調査面積の合計は357㎡である。なお、各トレンチの位置についてはFig.５のとおりである。

Tab.３　各調査トレンチの面積と調査目的

トレンチ	調査面積(㎡)	主な調査目的
75	301	国府関連施設（建物）の確認
76	24	国府関連施設（建物）の確認
77	32	国府関連施設（建物）の確認
計	357	

発掘調査は「上野国府等範囲内容確認調査基準」に基づいて行った。以下に調査方法について要点を記す。

グリッド設定（Fig.３）　調査区のグリッド設定は以下のとおりである。①単位は４m四方とする。②国家座標第Ⅸ系（日本測地系）を用い、Ｘ＝＋44000、Ｙ＝－72200を基点（Ｘ０、Ｙ０）とする。③西から東へ４mごとにＸの数値が増大し（Ｘ１、Ｘ２、Ｘ３……）、北から南へ４mごとにＹの数値が増大する（Ｙ１、Ｙ２、Ｙ３……）。④各グリッドの呼称基点は北西杭とする。なお、このグリッド設定は、区画整理に伴い継続的に調査が行われている元総社蒼海遺跡群のグリッド設定と共通するものである。

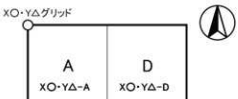


Fig.３　２m小グリッドの呼称

トレンチ設定　各トレンチの設定幅については、掘立柱建物の柱穴間隔を考慮して原則３mとしていたが、平成24年度の調査から４m幅へと拡大した。トレンチ名は、原則として調査順に数字で呼称することとし、平成23年度調査からの通し番号とした。

遺構の確認　遺構確認については、基本層序Ⅰ層およびⅡ層直下で行い、その後、上野国府の遺構面が存在するⅢ層（Hr－FP・As－C混土層）を細分しながら確認することとした。遺構の確認にあたって、必要な場合はサブトレンチを設定することにし、サブトレンチの規模は遺構保護のため必要最小限とした。

測量　遺構平面図については縮尺１/20を原則とし、必要に応じて１/10～１/50の縮尺を適宜使用することとした。また、土層図についても縮尺１/20とし、遺構毎の図面とは別に、グリッド杭のあるトレンチ壁面ですべて作成することにした。

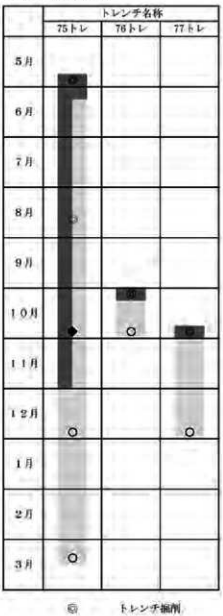
出土遺物の取り上げ　遺構毎を原則とし、遺構に属さない遺物は４mグリッド単位で記録を作成し取り上げることとした。なお、状況に応じて４mグリッドをFig.３のように４分割し、２mの小グリッド一括で取り上げた遺物もある。小グリッドの呼称は、北西から反時計回りでA～Dとした。なお現位置を保つ礎石等、施設を構成する遺物については、原則として現状保存することとした。

写真撮影　遺構の写真撮影については、35㎜フィルム（モノクロ、カラーリバーサル）およびデジタルデータを常時使用した。また、必要に応じて６×９サイズフィルムを使用した。空中写真撮影には６×６サイズフィルムもしくはドローンによるデジタルカメラ撮影を行った。

埋め戻し　調査終了後は、今後の調査と区別できるように石灰を散布してから埋め戻しをおこなった。重要と思われる遺構の保護のためにゴンベ砂もしくは川砂を入れて遺構を保護した上で埋め戻しを行った。

(2) 調査経過

Tab. 4　調査経過図



本年度の発掘調査は令和３年５月31日から開始し、令和４年３月14日に終了した。

最初に調査を行ったのは75レンチで、５月31日に掘削を行なった。掘削に際しては古代末期の遺構を逃さないために浅間Ｂ軽石層の有無に注意しながら行い、中世の遺物包含層である浅間Ｂ軽石混入土層（基本層序Ｉｂ層）を除去するように掘削を進め、その後は手掘りにより慎重に掘り下げを行った。その結果、調査区を南北に二分するＹ220ラインに到達するまでに２ヶ月以上の時間を費やしたことから、Ｙ220より南については、８月18日に掘削深度を慎重に確認しながら重機による掘削を再度行ない、作業の進捗を早めた。それにより、８月中旬からの作業はスムーズに進んだ。中世および古代末期と推定される遺構の掘り下げや記録を終了させたのち、10世紀から11世紀にかけての遺構の検出に努め、掘り下げを行った。粗方調査が終了した10月28日に75トレンチの空撮を行った。11月は臨時職員の雇用期間外であったため、作業を再開したのは12月１日からである。12月からは記録が済んでいなかった遺構の記録を中心に行った。そして75トレンチのうち記録が終了したＹ220までの南半分について、12月24日に埋め戻した。

76トレンチ、77トレンチの調査は、75トレンチの調査と並行して行った。76トレンチは10月７日に掘削を行なった。検出された遺構は規模の大きい中世の溝跡１条のみで、他は攪乱であった。検出した溝跡の部分的な掘り下げや図面と写真による記録後、10月21日に埋め戻した。77トレンチは、76トレンチの埋め戻しと同時となる10月21日に掘削を行なった。77トレンチも中世の溝を１条検出したほか、重複する古代（平安時代か）の竪穴建物跡や中世以降の土坑などのプランの確認を行い、遺構の掘り下げは次年度以降とした。このことから確認調査はすぐに終了し、掘削翌日の10月22日は天候にも恵まれたことからトレンチの全景撮影を行った。その後、トレンチ全体図を作成し、12月24日に75トレンチ南半分の埋め戻しとあわせて埋め戻した。

１月からの調査は、１号遺物集中の遺物の記録と掘り下げを主に行った。遺物量も多く、折しも強風の吹きすさぶ中での作業となった。この作業も２月９日までには終了し、その後１号遺物集中下層の遺構についてサブトレンチによる調査・記録を行った。最終的に75トレンチすべての埋め戻しが終了したのは３月14日であった。

なお、本年度の上野国府等調査委員会（第31回上野国府等調査委員会）は新型コロナウイルス蔓延を考慮して紙面による開催とし、本年度調査の報告・検討および次年度調査の計画について協議が行われた。また、元総社蒼海遺跡群（146）８区で検出された礎石建物跡の現地確認と検討のために３月９日に調査区現地において第32回上野国府等調査委員会を開催した。

4　基本層序

75トンチは、令和２年度に調査した73トンチに隣接し、また77トンチも同じく74トンチに隣接していることから、基本層序は同様である。76トンチは表土の直下層が総社砂総への漸移層（基本層序Ⅴ層）となっていたことから、現地表はかなり土取りされた状態となっていた。各トンチの基本層序を以下に示した。

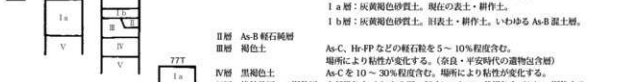


Fig. 4　各トンチ土層柱状図

5　遺構と遺物

(1)　各トンチの概要

以下に調査目的毎にトンチの概要について述べたい。

宮鍋神社周辺における国府関連遺構の確認調査

75トンチ（Fig. 7 ・ 8 ・ 9、巻頭図版３）

75トンチは宮鍋神社の南約100m付近に位置し、令和２年度に発掘調査を行った73トンチの東に隣接している。75トンチは73トンチと元総社普海遺跡群（136）で検出された布地業の礎石建物跡との中間に位置し、この間に同様の礎石建物跡が存在するか否かを確認するため301㎡を調査した。

検出された遺構は、古代の遺構は竪穴建物跡17軒（うち２軒は令和２年度調査で一部検出）、溝跡６条（うち２条は令和２年度調査で検出）、遺物集中１ヶ所、不明遺構１ヶ所、井戸跡２基、土坑７基、ピット３基が検出された。掘立柱建物跡や礎石建物跡は検出できなかった。なお、中世以降の遺構では井戸跡１基、土坑４基、ピット６基のほか、時期不明（古代？）のピットが４基検出された。

76トンチ（Fig.10、PL.10）

76トンチは宮鍋神社の南東約40m付近に位置し、平成30年に実施したレーダー探査で反応（何らか掘り込みが存在する）を示した地点に当たり、レーダー探査に反応したものの確認を目的として東西方向に長さ12m、幅２mのトンチを設定し24㎡の調査を行った。

検出された遺構は中世の溝１条のみで、レーダーに反応したものは攪乱であることが判明した。

77トンチ（Fig.10、PL.10）

77トンチは宮鍋神社の南南東約120m付近に位置し、令和２年度に調査した74トンチの東に隣接する。74トンチの南で総地業の礎石建物跡が検出されたことから、礎石建物等官衙関連遺構の検出を目的として東西方向に長さ16m、幅２mのトンチを設定し32㎡の調査を行った。

検出された遺構は、中世の溝１条が検出された。その他、10世紀代と推定される竪穴建物跡が複数重複した状態で検出された。

(2)　各トンチの検出遺構

以下に各トンチにおいて検出された遺構に関して、トンチの番号順に述べていきたい。

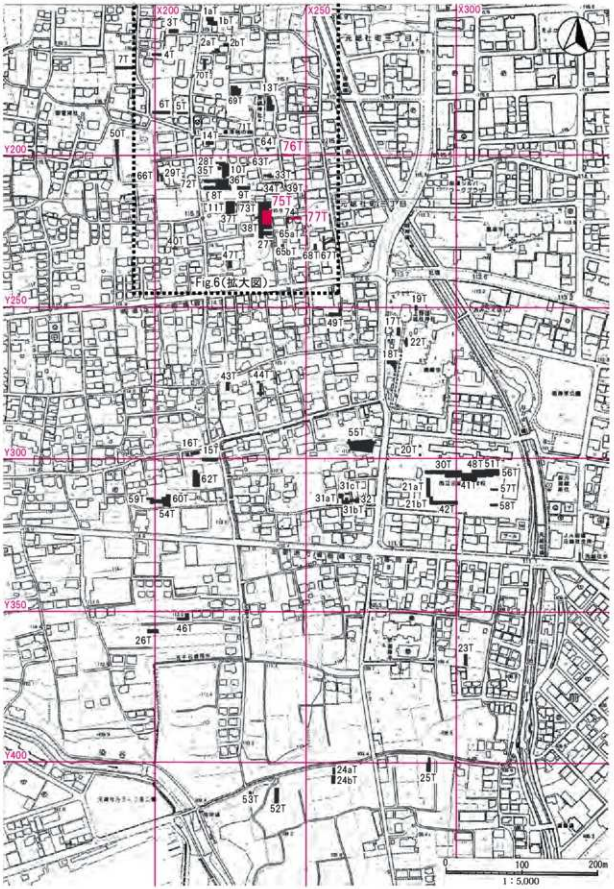


Fig. 5　グリッド設定図とトレンチ位置図

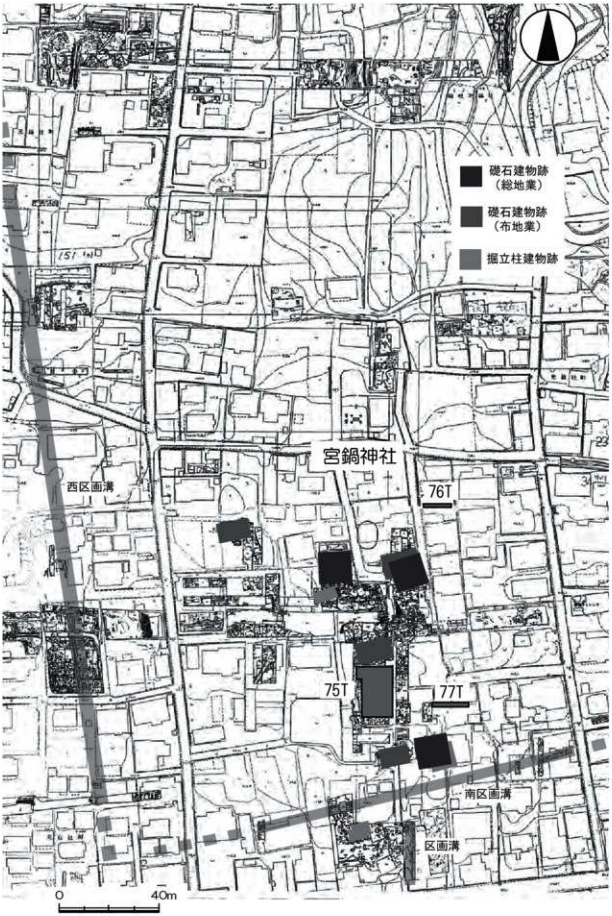


Fig. 6　各トレンチ詳細位置図

75 トレンチ（６世紀から７世紀）

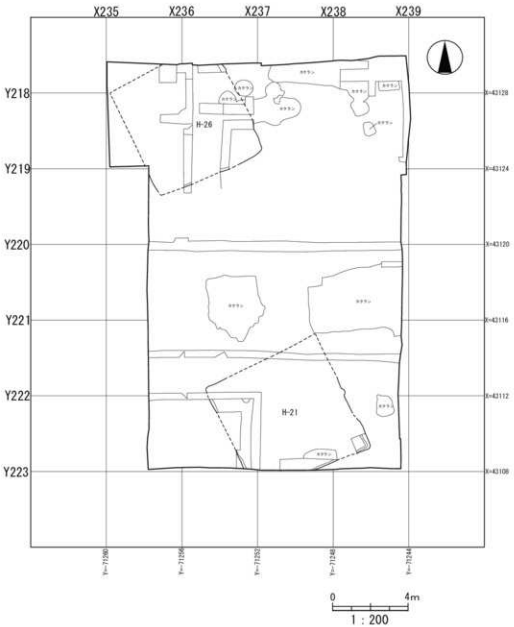


Fig. 7　各トレンチ全体図(1)

75 トレンチ（8 世紀から 11 世紀）

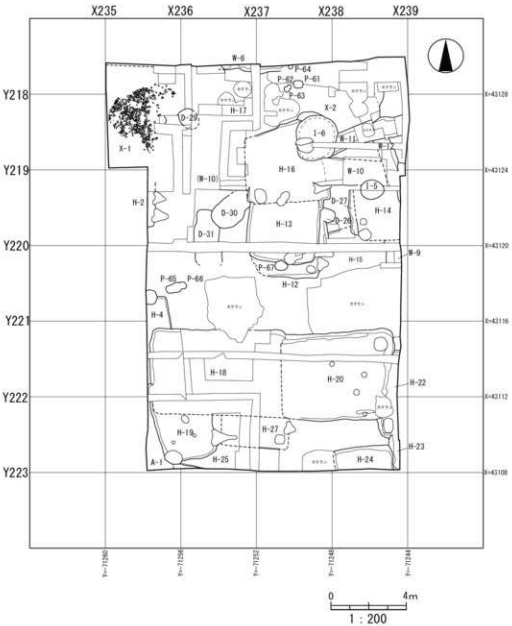


Fig. 8　各トレンチ全体図(2)

75 トレンチ（12 世紀以降）

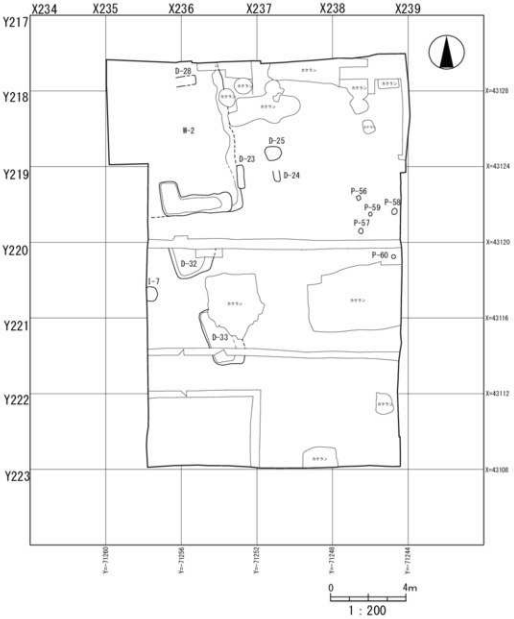
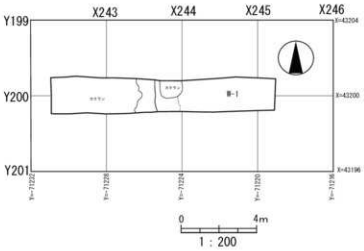


Fig. 9　各トレンチ全体図(3)

76 トレンチ



77 トレンチ

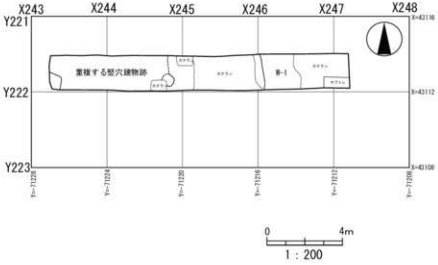


Fig. 10　各トレンチ全体図(4)

75トレンチ

(1) 竪穴建物跡

2号竪穴建物跡（Fig.11、PL.3）

位置　X235、Y218・219グリッド。　**主軸方向**　真北。　**形状等**　73トレンチの調査で竪穴建物跡の大部分が検出されていたが、今回の調査で東壁およびカマドが検出された。竪穴建物の形状は南北に長い長方形。東西[4.24]m、南北5.52m、残存する壁高は最大20cm。　**床面**　総社砂層面（基本層序Ⅵ層）に構築された地山床。ただし、今年度の調査区内では硬化の顕著な床面は確認できなかった。　**ピット等**　令和2年度調査でピット1基、床面の被熱スポットが1ヶ所検出されている。　**カマド**　東壁の南端付近で東壁に並列して2基検出され、北のカマドをaカマド、南のカマドをbカマドとした。aカマドの主軸方向はN―100°―E、全長70cm、最大幅60cmを測る。bカマドの主軸方向はN―102°―E、全長80cm、最大幅50cmを測る。両袖に構築材の芯として礫が認められた。また煙道部の一番先端にも切石が認められた。　**出土遺物**　土師器(甕)破片、須恵器(甕)破片、瓦(平瓦)破片、酸化焔焼成須恵器(椀・羽釜)破片、黒色土器(椀)破片、灰釉陶器(不明)、土師質土器(皿)破片。　**重複関係**　17・26号竪穴建物跡、2号溝跡、1号遺物集中と重複する。26号竪穴建物よりも新しいが、その他の遺構よりも古い。また、10号溝との重複も推定される。本遺構が古いか。　**時期**　11世紀前半と推定される。

4号竪穴建物跡（Fig.11、PL.7）

位置　X235、Y220・221グリッド。　**主軸方向**　令和2年度調査ではW―5°―Nと推定されたが、今回の調査でW―10°―Nと判明。　**形状等**　73トレンチの調査で竪穴建物の西半分が検出されていたが、今回の調査で東半分が検出された。形状は南北方向に長い長方形で東西[2.80]m、南北[4.5]m、残存する壁高は最大13cm。　**床面**　総社砂層漸移層（基本層序Ⅴ層）に構築された地山床。堅緻面が確認された。　**カマド**　検出できなかった。南東隅付近に存在したと推定される。　**出土遺物**　土師質土器（坏）破片、瓦（平瓦）破片、鉄製品（不明）。　**重複関係**　18号・19号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　10世紀前半と推定される。

12号竪穴建物跡（Fig.12・13、PL.3）

位置　X236・237、Y220グリッド。　**主軸方向**　N―4°―E。　**形状等**　プランのうち、南壁、カマドおよび東壁の一部は重複する遺構により壊されているほか、西壁は判然としなかった。プランは方形と推定され、残存する遺構分で東西[3.92]m、南北(1.20)m、壁高は最大36cm。　**床面**　総社砂層（基本層序Ⅵ層）に構築された地山床。　**ピット等**　プラン南東隅付近で1基検出。縁に粘土の分布も認められた。規模等は計測表（Tab.5）に記載。　**カマド**　東壁の南端付近に少量の灰や焼土が認められたことからカマドと認定した。主軸方向はN―90°―E、全長(60)cm、最大幅(60)cmを測る。構築材の跡と推定される小ピットが2基確認された。　**出土遺物**　酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（土釜）破片、灰釉陶器（椀転用）鉄製品（刀子）が出土。　**重複関係**　13号竪穴建物跡、67号ピットと重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　11世紀前半と推定される。

13号竪穴建物跡（Fig.12・13、PL.3・4）

位置　X236・237、Y219・220グリッド。　**主軸方向**　W―5°―N。　**形状等**　方形。竪穴建物のプランのうち、北壁は重複する16号竪穴建物により壊されている。遺構の規模は東西3.88m、南北(3.86)mを測る。　**床面**　総社砂層(基本層序Ⅵ層)に構築された地山床。堅緻面が認められた。　**ピット等**　南壁寄り中央付近にピットが1基認められた。規模等は計測表(Tab.5)に記載。その他、プラン中央南寄りにスポット的に床面が熱を受けている箇所が1か所認められた。　**カマド**　プラン南東隅に構築されていた。主軸方向はN―105°―E、全長100cm、最大幅(70)cmを測る。　**出土遺物**　須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀・羽釜）破片、灰釉陶器（椀・長頸瓶）破片、土師質土器（皿・坏・鉢）破片、瓦（平瓦）破片が出土。　**重複関係**　12号・16号竪穴建物跡、26号・30号土坑と重複する。12号竪穴建物跡、26号・30号土坑よりも新しい。16号竪穴建物跡よりも古い。　**時期**　11世紀後半と推定される。

14号竪穴建物跡（Fig.13、PL.3・4）

位置　X238、Y219グリッド。　**主軸方向**　W－3°－N。　**形状等**　東壁は調査区外、南壁・北壁も未検出であるが方形と考えられる。確認された規模は東西(2.2)m、南北(2.8)m、壁高は西壁がかろうじて確認できる程度であった。ただし、西側に重複する27号土坑はこの遺構の西壁の可能性が考えられる。　**床面**　総社砂層（基本層序Ⅵ層）に構築された地山床。堅緻面が認められた。　**ピット等**　南西隅付近で２基検出された。規模等は計測表（Tab.5）に記載。その他、プラン中央南西寄りに床面が熱を受けた箇所と炭化物の集中が１か所認められた。　**カマド**　未検出。調査区外に存在したものと推定される。　**出土遺物**　須恵器(甕)破片、酸化焔焼成須恵器(椀)破片、灰釉陶器(転用硯)、土師質土器(皿・坏)、白磁(椀)破片、瓦(平瓦)破片、鉄製品(刀子・鎌)が出土。　**重複関係**　12号溝跡、５号井戸跡、56号から59号ピットと重複する。12号溝跡よりも新しく、それ以外の遺構よりも古い。また10号溝跡との重複が考えられる(新旧関係は不明)。　**時期**　11世紀後半と推定される。

15号竪穴建物跡（Fig.13）

位置　X237･238、Y219･220グリッド。　**主軸方向**　N－74°－E。　**形状等**　竪穴建物と考えられる遺構(北壁および床面)を検出。検出状況から方形と推定される。確認された規模は東西(2.9)m、南北(2.2)m、残存する壁高は最大５cm。　**床面**　総社砂層への漸移層(基本層序Ⅴ層)に構築された地山床。堅緻面が認められた。　**出土遺物**　須恵器(蓋・甕)破片、酸化焔焼成須恵器(椀)破片、土師質土器(皿・坏)破片、石製品(玉？)破片が出土。　**重複関係**　13号・14号竪穴建物跡、９号溝跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　11世紀前半と推定される。

16号竪穴建物跡（Fig.12・13、PL.3・4）

位置　X236・237、Y218・219グリッド。　**主軸方向**　東壁および南東隅を基準とするとN－81°－E。　**形状等**　西壁・南壁は判然としないが方形を呈すると推定される。推定される規模は、東西(4.40)m、南北[4.4]m、残存する壁高は最大35cm。　**床面**　総社砂層（基本層序Ⅵ層）に構築された地山床、もしくは13号竪穴建物跡と重複する部分は貼床状。堅緻面が認められた。　**ピット等**　プラン南西隅および南壁中央付近において合計３基検出された。そのうち２基は重複関係をもつ。規模等は計測表（Tab.5）に記載。　**カマド**　東壁の南端寄りに構築されていた。重複する遺構に一部壊されていたが主軸方向はN－80°－E、全長108cm、最大幅(64)cmを測る。　**出土遺物**　土師器(高坏)破片、須恵器(蓋・甕)破片、酸化焔焼成須恵器(椀)破片、灰釉陶器(長頸瓶？)破片、黒色土器（椀）破片、土師質土器（皿・坏）破片、瓦（平瓦）破片、礫が出土。　**重複関係**　13号・17号・26号竪穴建物跡、10号溝跡、６号井戸跡、24号・25号土坑と重複する。13号・26号竪穴建物跡よりも本遺構が新しい。17号竪穴建物跡との関係は不明瞭。その他の遺構とは本遺構が古い。　**時期**　11世紀後半と推定される。

17号竪穴建物跡（Fig.17・18、PL.3）

位置・主軸方向・形状等　調査区北西付近で遺構確認を行っていた際に硬化面が確認され、これを竪穴建物跡の床面と認定したもの。重複する遺構や攪乱により明確にプランを確認することができなかった。平面的に硬化面の広がりや、サブトレンチで床面と考えられる平坦面が確認できた範囲はX235～237、Y217・218グリッド。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）もしくは26号竪穴建物跡の覆土上に構築された地山床で堅緻面が認められた。　**ピット等**　未検出であるがサブトレンチで床面が熱を受けた箇所が確認できた。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　酸化焔焼成須恵器（椀）破片、土師質土器（皿・坏）破片、鉄製品（鉄鏃）が出土。　**重複関係**　16号・26号竪穴建物跡、６号・10号溝跡、28号・29号土坑と重複する。26号竪穴建物跡よりも新しい、その他の遺構よりも本遺構は古い。16号竪穴建物跡との関係は不明瞭。　**時期**　11世紀後半と推定される。　**その他**　１号遺物集中は本遺構が埋没途中に形成されたと考えられる。

18号竪穴建物跡（Fig.14・15、PL.7）

位置　X235～237、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N－92°－E。　**形状等**　東西方向の長方形。西壁および北壁のラインを検出。規模は、東西(7.30)m、南北(4.50)m、残存する壁高は最大33cm。　**床面**　基本層序

Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。　**ピット等**　ピットは検出されていなが、西壁中央寄りおよびブラン中央やや南東より付近で床面が熱を受けている箇所が２か所認められた。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　打製石斧、須恵器（甕・転用硯）破片、灰釉陶器（椀・羽釜）破片、土師質土器（皿・坏）破片、瓦（平瓦）破片、羽口破片、鉄製品（刀子？）が出土。　**重複関係**　４号・19号・20号・21号・27号竪穴建物跡と重複する。20号竪穴建物跡以外については、本遺構が新しい。　**時期**　11世紀後半と推定される。

19号竪穴建物跡（Fig.14・15、PL.７）

位置　X235・236、Y222グリッド。　**主軸方向**　N―73°―E。　**形状等**　方形。北壁はほぼ確認できなかったが規模は、東西3.14m、南北4.52m、残存する壁高は最大40cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層(総社砂層)に構築された地山床。堅緻面が認められた。　**ピット等**　南西隅およびブラン中央やや南寄り付近で合計３基検出された。規模等は計測表(Tab.５)に記載。その他にブラン中央付近で床面が熱を受けている箇所が１か所認められた。　**カマド**　ブラン南東隅付近に構築されていた。主軸方向はN―96°―E、全長136cm、最大幅94cmを測る。構築材の跡と推定される小ビットが認められた。　**出土遺物**　須恵器(甕)破片、酸化焔焼成須恵器(椀・羽釜)破片、灰釉陶器(椀・瓶・長頸瓶)破片が出土。　**重複関係**　18号・21号・25号竪穴建物跡、１号道路跡と重複する。21号竪穴建物跡、１号道路跡よりも新しい。18号・25号竪穴建物跡とでは本遺構が古い。　**時期**　11世紀前半と推定される。

20号竪穴建物跡（Fig.14・15、PL.７・８・９）

位置　X237・238、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―87°―E。　**形状等**　東西方向の長方形。西壁および南壁の一部が確認できなかったが、規模は東西(6.0)m、南北4.8m、残存する壁高は最大52cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。　**ピット等**　ピットが北東隅およびブラン中央部付近で４基検出された。規模等については計測表（Tab.５）に記載。その他、ブラン中央付近で床面が熱を受けている箇所の集中が認められた。　**壁周溝**　部分的に認められた。最大幅20cm、深さ７cm。　**カマド**　ブラン南東隅付近の床面に灰の分布が認められたことから、付近に構築されていたと推定される。　**出土遺物**　土師器（坏・高坏）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（椀）破片、黒色土器（椀）破片、土師質土器（皿・坏・土釜）破片、灰釉陶器（長頸瓶？）破片、瓦（平瓦）破片、羽口破片、鉄製品（釘？）、銅製品（椀）破片、石製品（碁石）、礫が出土。　**重複関係**　18号・21号・22号・27号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**時期**　11世紀後半と推定される。

21号竪穴建物跡（Fig.16、PL.６・９）

位置　X236～238、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　N―70°―W。　**形状等**　方形。東西6.0m、南北(6.4)m、残存する壁高は最大43cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。　**ピット等**　ピットが２基検出された。規模等は計測表（Tab.５）に記載。　**壁周溝**　南東隅付近で認められた。最大幅10cm、深さ５cm。　**カマド**　壁中央付近に構築材と推定される粘土の分布が認められたのみ。　**出土遺物**　土師器（坏・甕・高坏）破片が出土。　**重複関係**　18号・19号・20号・24号・25号・27号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古い。　**時期**　６世紀後半と推定される。　**その他**　平成27年度上野国府等範囲内容確認調査38トレンチの２号住居跡と同一の遺構と考えられる。

22号竪穴建物跡（Fig.16、PL.６・９）

位置　X238、Y221・222グリッド。　**主軸方向**　真北。　**形状等**　方形。大半は調査区外であるが検出された遺構の範囲は東西(0.6)m、南北(2.9)m、残存する壁高は最大28cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。　**ピット等**　ピットを１基検出。規模等は計測表（Tab.５）に記載。　**壁周溝**　南西隅付近で検出。最大幅10cm、深さ３cm。　**カマド**　未検出（調査区外か）。　**出土遺物**　須恵器（甕）、酸化焔焼成須恵器土（坏・椀・羽釜）、黒色土器（椀）破片、灰釉陶器（皿）破片、土師質土器（皿・坏）が出土。　**重複関係**　20号・23号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古いと考えられる。　**時期**　11世紀前半と推定される。

23号竪穴建物跡（Fig.16、PL.9）

位置　X238、Y222グリッド。　**主軸方向**　真北。　**形状等**　方形。大半は調査区外であるが検出された遺構の範囲は東西(1.0)m、南北(4.7)m、残存する壁高は最大26cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。硬化面が認められた。　**カマド**　調査区外。　**出土遺物**　土師器（坏）破片、酸化焔焼成須恵器（椀・羽釜）破片、礫が出土。　**重複関係**　22号・24号竪穴建物跡と重複する。22号竪穴建物跡とでは本遺構が新しい。24号竪穴建物跡とでは不明。　**時期**　11世紀後半と推定される。　**その他**　元総社蒼海遺跡群（65）の15号住居跡と同一の遺構と考えられる。

24号竪穴建物跡（Fig.16、PL.9）

位置　X238、Y222グリッド。　**主軸方向**　W－5°－N。　**形状等**　方形。東西[3.24]m、南北[4.18]m、残存する壁高は最大37cm。　**床面**　基本層序Ⅵ層（総社砂層）に構築された地山床。堅緻面が認められた。　**カマド**　調査区外。　**出土遺物**　土師器（台付甕）破片、須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（椀・羽釜）破片、灰釉陶器（瓶？）破片、土師質土器（土釜）破片、砥石？が出土。　**重複関係**　21号・23号竪穴建物跡と重複する。21号竪穴建物跡とでは本遺構が新しい。23号竪穴建物跡とでは不明。　**時期**　11世紀前半と推定される。　**その他**　平成27年度上野国府等範囲内容確認調査38トレンチの１号住居跡と同一の遺構と考えられる。

25号竪穴建物跡（Fig.17、PL.7）

位置・主軸方向・形状等　調査区南西隅で遺構確認の際に壁と床面状の遺構を確認したもので遺構の規模は不明。確認した位置はX236、Y222グリッド。壁の方向はN－106°－W。壁高は最大25cm。　**床面**　基本層序Ⅴ層（総社砂層への漸移層）もしくは21号竪穴建物跡の覆土に構築された地山床。　**カマド**　未検出。　**出土遺物**　土師器（坏・高坏）破片。須恵器（甕・不明）破片、酸化焔焼成須恵器（椀）破片、灰釉陶器（小片）、土師質土器（皿・坏）破片、羽口破片が出土。　**重複関係**　19号・21号・27号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番新しい。　**時期**　11世紀後半と推定される。

26号竪穴建物跡（Fig.17・18、PL.3）

位置　X235～237、Y217～219グリッド。　**主軸方向**　N－75°－E。　**形状等**　方形。東西[6.10]m、南北[6.50]m、残存する壁高は最大38cm。　**床面**　総社砂層の地山床と貼床。貼床は硬化が認められなかった。　**壁周溝等**　南壁および西壁（本遺構に該当すると考えられる。）で検出。最大幅20cm、深さ10cm。　**カマド**　北壁中央部に構築。サブトレンチ内で袖（粘土）を検出したもので規模は不明。　**出土遺物**　土師器（甑・甕）破片、菰編石、須恵器（甕）破片、瓦（平瓦）破片、酸化焔焼成須恵器（小片）が出土。　**重複関係**　２号・５号・16号・17号竪穴建物跡、２号・６号・10号溝跡、１号遺物集中、28号・29号土坑と重複する。基本的に本遺構が一番古いと考えられるが、５号竪穴建物跡との新旧関係は不明瞭。　**時期**　６世紀後半と推定される。

27号竪穴建物跡（Fig.17、PL.9・10）

位置　X236・237、Y222グリッド。　**主軸方向**　N－96°－E。　**形状等**　南壁およびカマドの位置から方形と推定されるが明確にプランを確認できなかったため全体像は不明。検出された遺構の範囲は、東西(1.90)m、南北(1.50)m、残存する壁高は最大15cm。　**床面**　21号竪穴建物跡覆土に構築された地山床。堅緻面が確認できた。　**ピット等**　南東隅に浅めのピットを１基検出。規模等は計測表（Tab.5）に記載。　**カマド**　東壁南東隅寄りに構築。主軸方向はN－108°－E、全長66cm、最大幅70cmを測る。両袖には構築材の石を検出した。　**出土遺物**　酸化焔焼成須恵器（椀・羽釜）破片、瓦（平瓦）破片が出土。　**重複関係**　20号・21号・25号竪穴建物跡と重複する。21号竪穴建物跡よりも新しく、20号・25号竪穴建物跡よりも古い。　**時期**　10世紀前半と推定される。

(2)　溝跡

２号溝跡（Fig.19、PL.1）

位置　X235・236、Y217～219グリッド。　**主軸方向**　E－13°－N。　**形状等**　令和２年度の調査範囲では

断面形状が浅い逆台形を呈していたが、その南東への延伸に当たる本年度調査区では、幅がさらに広がり溝というよりも浅い方形のくぼみ状となった。また、その南端部では底面に逆L字形の溝状の掘り込みが検出された。全体での長さ13.5m、最大上幅[5.60]m、最大下幅[5.00]、深さ20cm。逆L字形の溝状の掘り込みは、断面が浅い逆台形で、東西3.70m、南北1.86m、最大上幅1.02m、最大下幅0.88m、深さ34cm。 **重複関係** 17号・26号竪穴建物跡、6号・10号溝跡、1号遺物集中、28号・29号土坑と重複する。基本的には本遺構が一番新しいが28号土坑よりも古い。 **出土遺物** 磨石(縄文時代)、土師器(坏)破片、須恵器(盤?転用硯)破片、酸化焔焼成須恵器(椀)破片、土師質土器(皿・坏)破片、瓦(平瓦)破片が出土。 **時期** 古代末(12世紀頃か)と推定される。

6号溝跡(Fig.20)

位置 X235～237、Y217グリッド。 **主軸方向** N—90°—W。 **形状等** 断面はU字形。規模は令和2年度調査時の計測値で調査区内での長さ(11.0)m、最大上幅(2.3)m、最大下幅(1.4)m、深さ(70)cm。 **重複関係** 17号・26号竪穴建物跡、2号溝跡と重複する。17号・26号竪穴建物跡よりも新しく、2号溝跡よりも古い。12号溝跡との重複が推定されるが付近は土取りされており確認できなかった。 **出土遺物** 土師器(坏・甕)破片、須恵器(盤?転用硯)破片、酸化焔焼成須恵器(椀)破片、土師質土器(皿・坏)破片、瓦(平瓦)破片が出土。 **時期** 11世紀代に開削されたと推定される。

9号溝跡(Fig.20)

位置 X238、Y220グリッド。 **主軸方向・形状等** 部分的な検出であるが、主軸方向は真北と考えられる。断面は浅い逆台形。調査区内での長さ(1.2)m、上幅(1.1)m以上、深さ54cm。覆土中位付近に硬化面が認められた。 **重複関係** 15号竪穴建物跡、60号ピットと重複する。竪穴建物よりも新しくピットよりも古い。 **出土遺物** 須恵器(甕)破片、土師質土器(皿・坏)破片が出土。 **時期** 古代末と推定される。

10号溝跡(Fig.20・21、PL.4)

位置 X235～238、Y218・219グリッド。 **主軸方向・形状等** 調査区内のうちX235・236と237・238でそれぞれ溝跡が検出された。両溝跡が平面的に同軸であることから同一の溝と判断した。断面形状はX236では逆台形を呈するがX237・238では浅いU字形を呈する。確認(想定)される長さは[13.6]m、X236付近では最大上幅1.1m、最大下幅0.34m、深さ46cmを測り、覆土のうち下部は比較的硬化していた。X237・238付近では最大上幅1.4m、最大下幅1.10m、深さ26cmを測る。 **重複関係** 2号・16号・26号竪穴建物跡、12号溝跡、23号・24号・30号土坑と重複する。各竪穴建物、12号溝跡、30号土坑とでは本遺構が新しい。23・24号土坑については本遺構が古い。 **出土遺物** 須恵器(甕)破片。灰釉陶器(椀・長頸瓶)破片、酸化焔焼成須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・坏)破片、砥石、礫が出土。 **時期** 古代末(11世紀代か)と推定される。

11号溝跡(Fig.20・21、PL.5)

位置 X237・238、Y218グリッド。 **主軸方向** N—74°—E。 **形状等** 断面は逆台形。調査区内での長さ(4.2)m、最大上幅1.10m、最大下幅0.80m、深さ30cm。西は6号井戸跡よりも先でプランを確認できなかった。 **重複関係** 12号溝跡、6号井戸跡と重複する。両遺構よりも古い。 **出土遺物** 酸化焔焼成須恵器(椀・羽釜)破片、土師質土器(皿・坏)破片、鉄製品(不明)が出土。 **時期** 古代。10世紀代には廃絶か。

12号溝跡(Fig.20・21、PL.5)

位置 X238、Y217～219グリッド。 **主軸方向** W—15°—N。 **形状等** 断面は逆台形。調査区内での長さ[7.0]m、最大上幅1.12m、深さ30cm。 **出土遺物** 土師器(甕?)破片、礫が出土。 **重複関係** 14号竪穴建物跡、11号溝跡と重複する。本遺構が一番古い。6号溝跡との重複が推定されるが交点付近が土取りされており確認できなかった。 **時期** 古代。8世紀代か。 **その他** 令和2年度調査73トレンチで検出された19号・21号土坑との連続性が考えられる。

(3) 道路跡

1号道路跡（Fig.23、PL.10）

位置　X235、Y222グリッド。　**主軸方向・形状等**　主軸方向はW—20°—N。令和2年度調査73トレンチの延伸で硬化面（道路面）が認められたもの。73トレンチ調査時と同様で硬化面が認められるだけで側溝等は認められなかった。　**重複関係**　4号・18号・19号竪穴建物跡と重複する。本遺構が一番古い。　**出土遺物**　土師器（坏）破片。須恵器（甕）破片、酸化焔焼成須恵器（坏・椀）破片、土師質土器（皿）破片、灰釉陶器（不明）破片が道路面より上の層から出土。　**時期**　8世紀以降には存在し10世紀代には廃絶していたと推定される。

(4) 不明遺構、その他

1号遺物集中（X—1）（Fig.24・25、巻頭図版2）

位置　X235、Y217・218グリッド。　**形状等**　浅い落ち込み（若干埋没した17号竪穴建物跡と推定される）に土師質土器の皿と坏が大量に廃棄されるような状態で出土したもの。遺物の分布は半円形を呈し、東西4.0m、南北4.0mの範囲に広がり、X235・Y218グリッドa小グリッドの遺物の出土量が一番多い。遺物はくぼみ底部に向かい厚くなっていくように遺物が堆積し、その厚さは最大20cmを測る。　**重複関係**　2号・17号・26号竪穴建物跡、2号溝跡と重複する。竪穴建物跡よりも新しく、2号溝跡よりも古い。　**出土遺物**　土師器（甕）破片、土師質土器（皿・坏・椀・鉢・器種不明（脚部））破片、白磁（椀）破片・白色土器（椀）・石製品（鉢状）破片が出土。　**時期**　古代（11世紀代？）と推定される。

2号不明遺構（X—2）（Fig.23、PL.3）

位置　X237・238、Y318グリッド。　**主軸方向・形状等**　焼土や灰の分布と平坦面が検出されたが、形状は重複する遺構や撹乱の影響で不明。平坦面は基本層序V層（総社砂層への漸移層）に構築されている。顕著な硬化は認められなかった。　**重複関係**　6号井戸跡、12号溝跡と重複する。12号溝よりも新しい。6号井戸跡よりも古い。　**出土遺物**　酸化焔焼成須恵器（椀・羽釜）破片、土師質土器（土釜・皿）破片が出土。　**時期**　11世紀前半と推定される。　**その他**　不明遺構としたが、焼土をともなう状況や出土遺物から、竪穴建物跡の可能性も考えられる。

(5) 井戸跡、土坑、ピット（Fig.21・22・23、PL.1・2・4・5・6・10）

井戸跡が3基、土坑が11基、ピットが13基検出された。各遺構の規模等については計測表（Tab.5）に記載した。

76トレンチ

(1) 溝跡

1号溝跡（Fig.26、PL.10）

位置　X243～245、Y199・200。　**主軸方向**　N—4°—W。　**形状等**　プランを確認し、一部を深堀りしたのみのため断面形状は不明。調査区内で全幅を確認できなかったため規模も不明であるが、少なくとも上幅6m以上。　**出土遺物**　なし。　**時期**　中世。　**その他**　77トレンチ1号溝跡と同一の溝と考えられる。

77トレンチ

(1) 溝跡

1号溝跡（Fig.26、PL.10）

位置　X246・247、Y221グリッド。　**主軸方向**　N—8°—W。　**形状等**　プランを確認したのみのため断面形状は不明。また調査区内で全幅を確認できなかったため規模も不明であるが、少なくとも上幅5m以上。　**出土遺物**　陶器破片。　**時期**　中世。　**その他**　76トレンチ1号溝跡と同一の溝跡と考えられる。

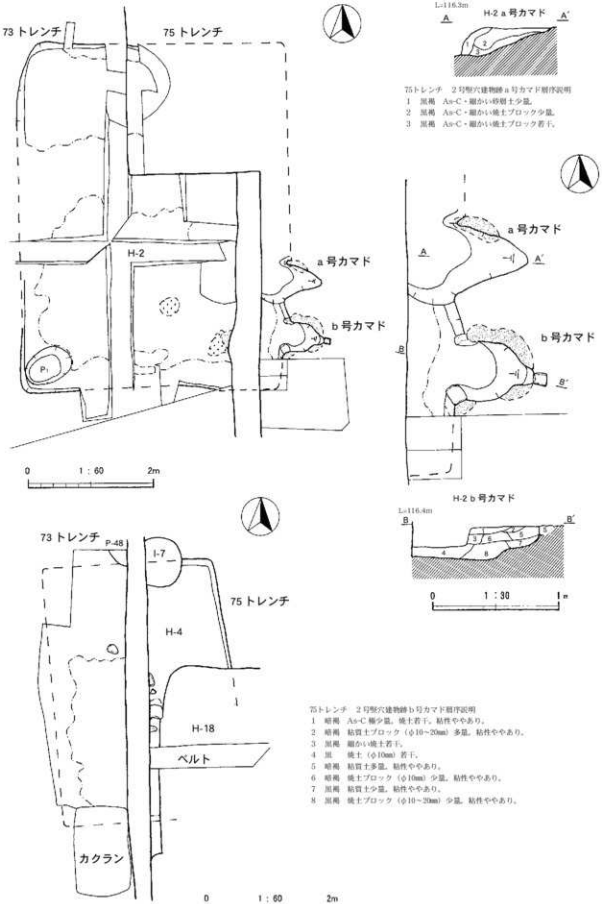
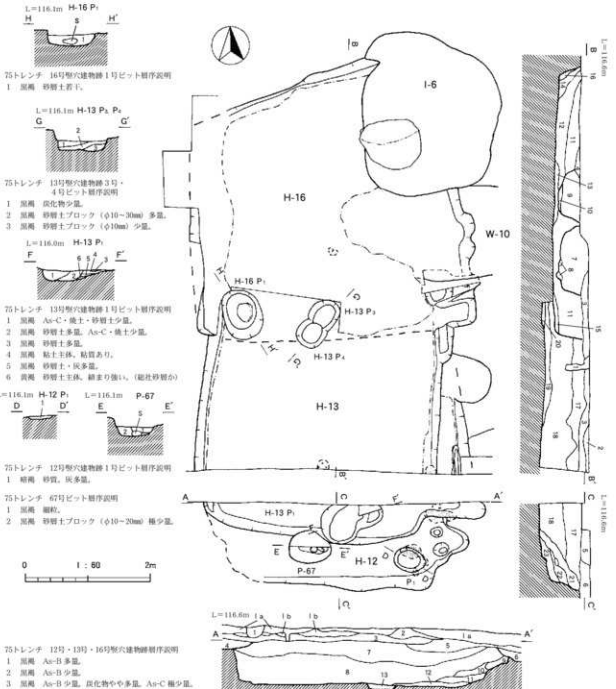


Fig. 11　75トレンチ各遺構(1)



75トレンチ　16号竪穴建物跡1号ピット層序説明
1　黒褐　砂質土若干。

75トレンチ　13号竪穴建物跡3号・4号ピット層序説明
1　黒褐　炭化物少量。
2　黒褐　砂質土ブロック（φ10～30mm）多量。
3　黒褐　砂質土ブロック（φ10mm）少量。

75トレンチ　13号竪穴建物跡1号ピット層序説明
1　黒褐　As-C・焼土・砂質土少量。
2　黒褐　砂質土多量。As-C・焼土少量。
3　黒褐　砂質土多量。
4　黒褐　粘土主体。粘質あり。
5　黒褐　砂質土・灰多量。
6　黄褐　砂質土主体。締まり強い。（砓光砂質か）

75トレンチ　12号竪穴建物跡1号ピット層序説明
1　暗褐　砂質。灰多量。

75トレンチ　67号ピット層序説明
1　黒褐　細粒。
2　黒褐　砂質土ブロック（φ10～20mm）極少量。

75トレンチ　12号・13号・16号竪穴建物跡層序説明
1　黒褐　As-B多量。
2　黒褐　As-B少量。
3　黒褐　As-B少量。炭化物やや多量。As-C極少量。
4　黒褐　As-B少量。As-C極少量。
5　黒褐　As-B極少量。As-C少量。
6　黒褐　As-C少量
7　黒褐　As-C・炭化物少量。（10号溝跡）
8　　　　骨片多量（10号溝跡）
9　黒褐　As-C・炭化物少量。（11号溝跡？）
10　黒褐　As-C・炭化物少量。砂質土極少量。（11号溝跡？）
11　黒褐　As-C・炭化物少量。（16号竪穴建物跡）
12　黒褐　灰多量。焼土・As-C少量。（16号竪穴建物跡）
13　黒褐　As-C極少量。（16号竪穴建物跡）
14　黒褐　炭化物・灰・焼土・As-C少量。（16号竪穴建物跡）
15　黒褐　As-C・灰・焼土少量。（16号竪穴建物跡）
16　暗褐　砂質土。漸移層主体。（16号竪穴建物跡）
17　黒褐　As-C少量。炭化物極少量。（13号竪穴建物跡）
18　暗褐　As-C・砂質土ブロック（φ10～20mm）少量。炭化物極少量。（13号竪穴建物跡）
19　暗褐　As-C・砂質土ブロック（φ10mm程）少量。細かい砂質土若干。（13号竪穴建物跡）
20　黒褐　炭化物多量。焼土・灰少量。（13号竪穴建物跡）
21　黒褐　As-C多量。（13号竪穴建物跡）
22　黒褐　As-C少量。粘質土多量。（13竪穴建物跡）
23　暗褐　As-C極少量。（13号竪穴建物跡）

75トレンチ　13号竪穴建物層序説明
1a暗褐　As-B混入土層
1b暗褐　As-B混入土層
1c暗褐　シルト質土。
1　黒褐　As-B多量。
2　黒褐　As-B主体。（粕川パミスがブロック含む）
3　黒褐　As-C少量。As-B・砂礫極少量。
4　黒褐　As-C多量。
5　黒褐　白色シルト質土ブロック（φ10～20mm）少量。炭化物極少量。
6　黒褐　As-C多量。炭化物少量。
7　黒褐　As-C少量。炭化物極少量。
8　暗褐　As-C・砂質土ブロック（φ10～20mm）少量。炭化物極少量。
9　黒褐　As-C・砂質土極少量。
10　暗褐　白色粘土ブロック（φ10～20mm）多量。粘性ややあり。
11　灰黄褐灰少量。焼土多量。
12　黒　　灰多量。
13　黒褐　As-C少量。上部は締まり強い。（P₁覆土）

Fig. 12　75トレンチ各遺構(2)

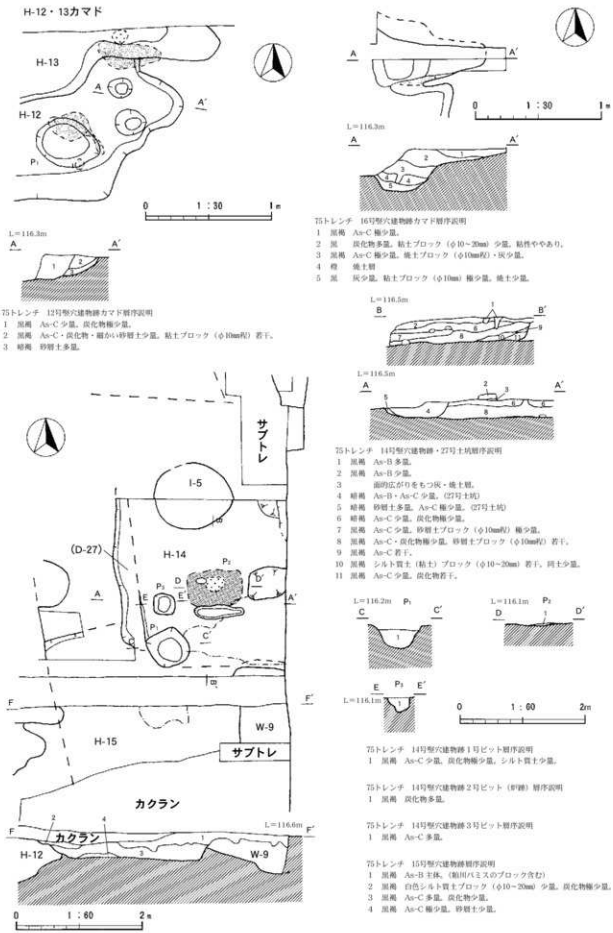


Fig. 13 75トレンチ各遺構(3)

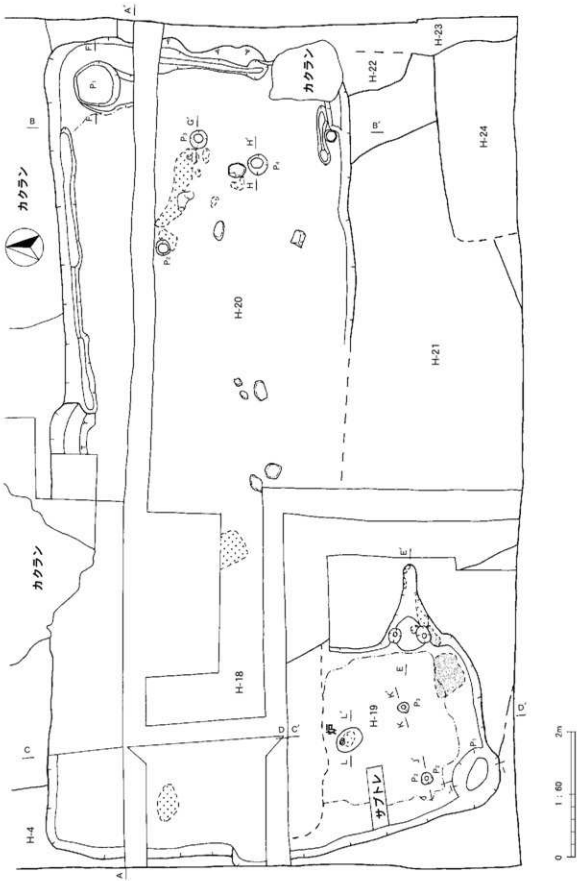
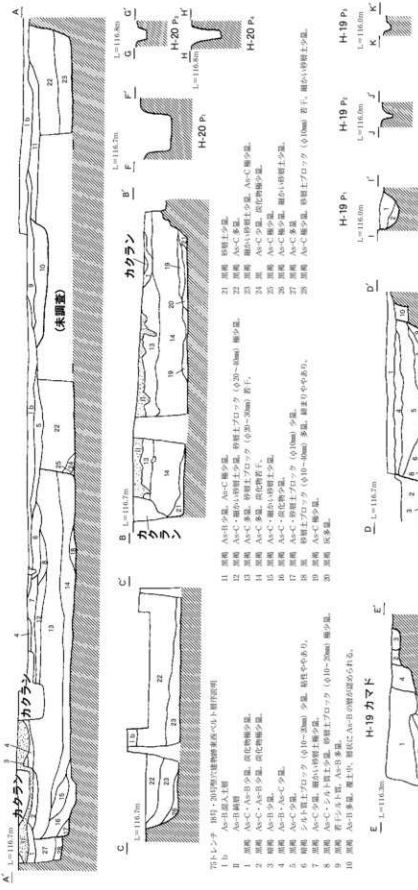


Fig. 14　75トレンチ各遺構(4)



75トレンチ 1973・2015年穴遺物埋蔵状況・土層説明
1 b　Au-B混入土層
B　Au-B純粒
1　黒褐　Au-B・Au-C多少混。炭化物微少混。
2　黒褐　Au-C・Au-B少混。炭化物微少混。
3　暗褐　Au-B少混。
4　黒褐　Au-B・Au-C少混。
5　黒褐　Au-C少混。
6　黒褐　Au-C・ブロック（小10～20mm）少混。粘性やわらか。
7　黒褐　Au-C・少混。細かい砂粒十微少混。
8　黒褐　Au-C・シルト質土少混。砂質土ブロック（小10～20mm）微少混。
9　黒褐　若干シルト質。Au-B多混。
10　黒褐　Au-B多混。確信にAu-B分離作業が進められる。
11　黒褐　Au-B少混。Au-C微少混。
12　黒褐　Au-C・細かい砂粒土少混。砂質土ブロック（小20～30mm）微少混。
13　黒褐　Au-C・Au-B多混。炭化物多混。
14　黒褐　Au-C多混。炭化物若干。
15　黒褐　Au-C・細かい砂粒土少混。
16　黒褐　Au-C・炭化物少混。
17　黒褐　Au-C・砂質土ブロック（小10mm）少混。
18　黒褐　Au-C・砂質土ブロック（小10～20mm）多混。粘土分やわらかい。
19　黒褐　Au-C微少混。
20　黒褐　炭多混。
21　黒褐　砂質土少混。
22　黒褐　Au-C多混。
23　黒褐　砂質土少混。Au-C微少混。
24　黒　Au-C少混。炭化物微少混。
25　黒褐　Au-C微少混。
26　黒褐　Au-C微少混。細かい砂粒土少混。
27　黒褐　Au-C多混。
28　黒褐　Au-C微少混。砂質土ブロック（小10mm）若干。細かい砂粒土少混。

75トレンチ 1973・2272年穴遺物埋蔵状況説明
1　黒褐　Au-B多混。
2　黒褐　Au-C多混。
3　黒褐　Au-C微少混。細かい砂粒土少混。
4　黒褐　Au-C少混。
5　暗褐　Au-C多混。砂質土ブロック（小10～30mm）・確認面ブロック微少混。
6　黒褐　Au-C多混。
7　黒褐　Au-C少混。
8　黒褐　Au-C多混。
9　暗褐　Au-C微少混。
10　暗褐　Au-C若干。
1　黒褐　Au-C多混。
2　黒褐　炭多混。

75トレンチ 1973年穴遺物埋蔵状況説明
1　黒褐　Au-C多混。
2　黒褐　Au-C多混。
3　黒褐　Au-C微少混。
4　黒褐　炭・粘土多混。
5　黒褐　粘土少混。
6　暗褐　粘土若干。
7　暗褐　粘土・炭少混。粘性やわらかい。
8　暗褐　Au-C微少混。
9　暗褐　炭

75トレンチ 1973年穴遺物埋蔵状況説明
1　黒褐　Au-C多混。
2　黒褐　Au-C多混。
3　黒褐　Au-C微少混。
4　黒褐　Au-C少混。
5　黒褐　Au-C多混。
6　黒褐　Au-C多混。
7　黒褐　Au-C微少混。
8　黒褐　Au-C若干。
9　暗褐　Au-C若干。
10　暗褐　Au-C少混。

Fig. 15　75トレンチ各遺構(5)

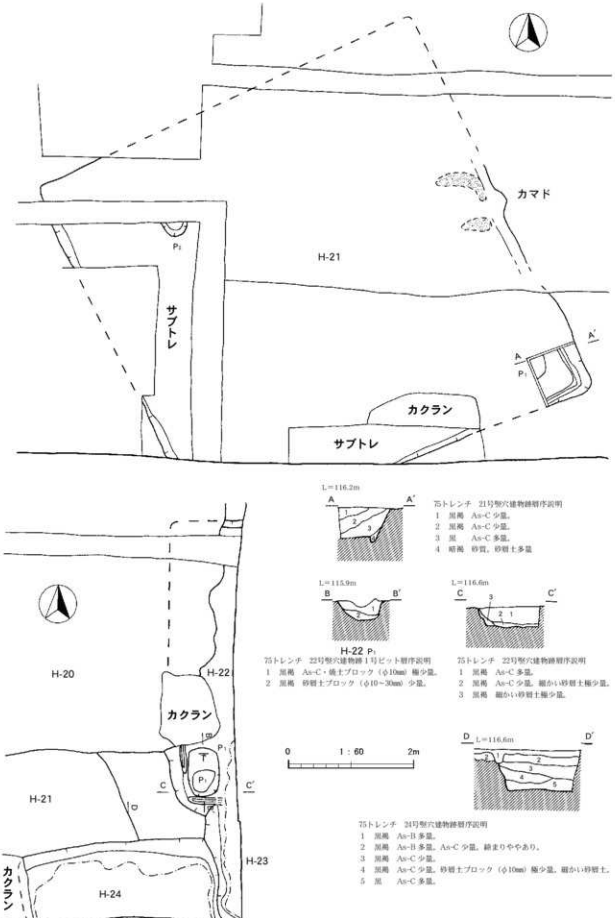


Fig. 16　75トレンチ各遺構(6)

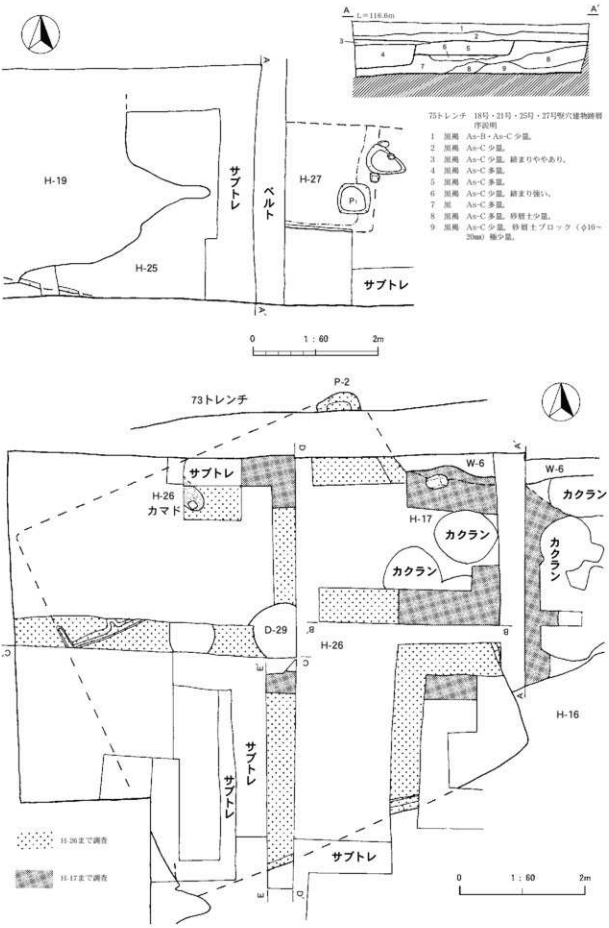
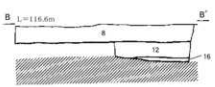
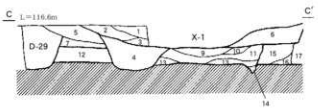


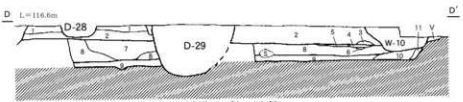
Fig. 17　75トレンチ各遺構(7)

75トレンチ　17号・26号竪穴建物跡層序説明（東西サブトレンチ）
1　黒褐　As-B少量。炭粒・As-C極少量。
2　黒褐　As-B少量。シルト質土少量で一部主体的。
3　黒褐　As-C極少量。砂質土ブロック（φ10～20mm）多量。
4　黒褐　As-C多量。砂質土ブロック（φ20mm）若干。
5　黒褐　砂質土ブロック（φ10～30mm）少量。As-B極少量。
6　黒褐　As-C多量。炭粒少量。
7　黒褐　As-C・砂質土ブロック（φ10mm～20mm）少量。
8　暗褐　As-C多量。砂質土ブロック（φ20mm）若干。
9　黒褐　As-C多量。

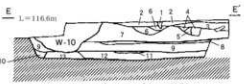




75トレンチ　17号・26号竪穴建物跡層序説明（南北サブトレンチ東壁）
1　黒褐　As-B極少量。
2　黒褐　As-C多量。砂質土ブロック（φ10mm）・炭化物若干。
3　黒褐　細かい砂質土少量。
4　黒褐　灰多量。
5　黒褐　緻密。締まり強い。
6　黒褐　細かい砂質土少量。
7　黒褐　As-C少量。上部は締まり強い。
8　黒褐　As-C多量。上部は締まり強い。
9　黒褐　As-C極少量。砂質土ブロック（φ10～20mm）少量。
10　黒　炭化物・As-C少量。
11　暗褐　砂質土主体。



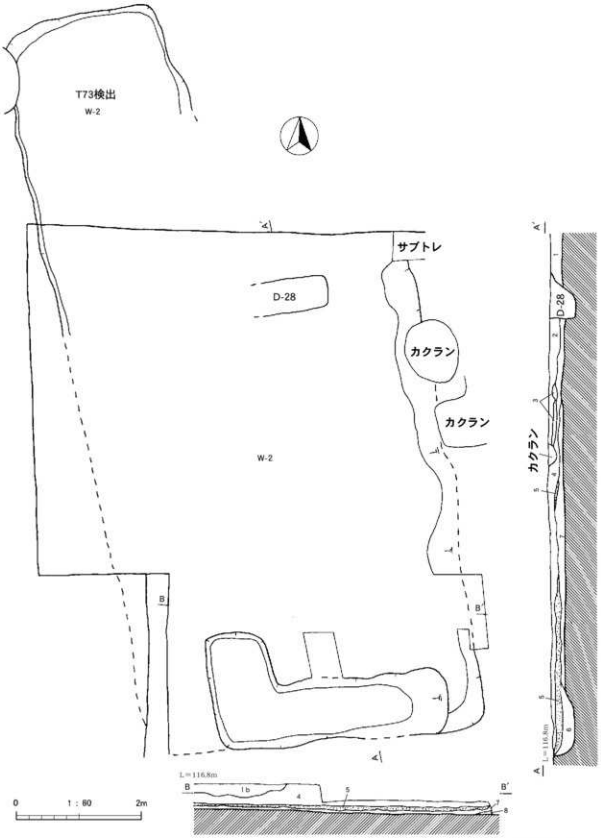
H-17・26 南北サブトレ東壁



H-17・26 南北サブトレ西壁

75トレンチ　17号・26号竪穴建物跡層序説明（南北サブトレンチ西壁）
1　黒褐　As-B多量。
2　黒褐　As-B・細かい砂質土少量。
3　黒褐　As-B・As-C極少量。
4　黒褐　As-C少量。炭化物多量。
5　黒褐　砂質土多量。
6　黒　上部に焼土。灰多量。
7　黒褐　As-C多量。砂質土ブロック（φ10mm）・炭化物若干。
8　黒褐　緻密。締まり強い。
9　黒褐　As-C多量。上部は締まり強い。
10　黒褐　As-C若干。
11　黒褐　緻密。締まり強い。
12　黒褐　As-C極少量。砂質土ブロック（φ10～20mm）少量。
13　黒　炭化物・As-C少量。

Fig. 18　75トレンチ各遺構(8)



75トレンチ　2号溝跡層序説明
1b 黒褐　表土。As-B 混入土層
1　黒褐　As-B 多量。
2　黒褐　As-B 多量。
3　黒褐　As-B 多量。
4　黒褐　As-B 多量。
5　黒褐　As-B 主体。(上部にシルト質土が堆積する部分がある)
6　黒褐　As-B 多量。
7　黒褐　As-B 少量。
8　黒褐　As-B 極少量。

Fig. 19　75トレンチ各遺構(9)

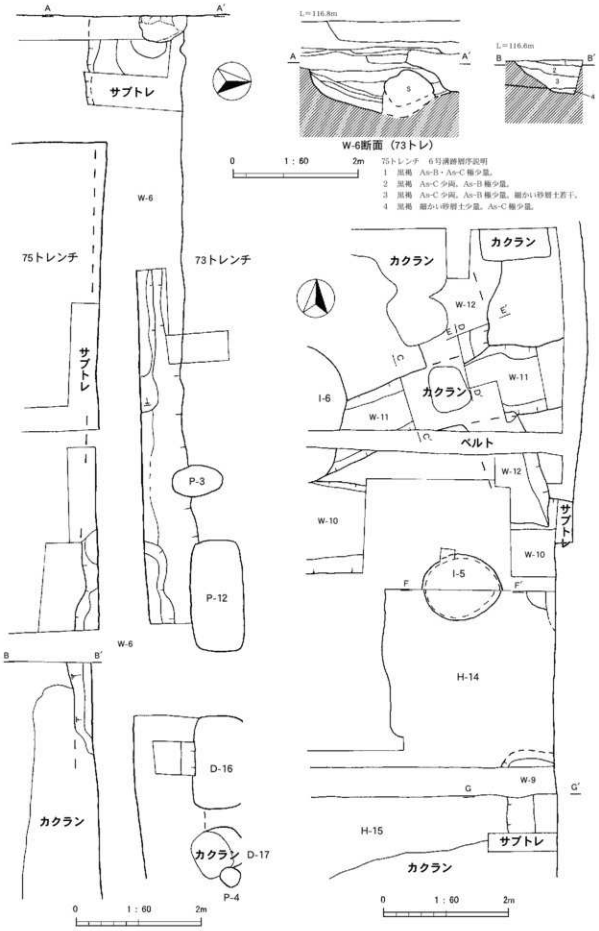
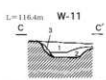
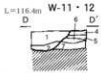


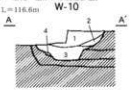
Fig. 20　75トレンチ各遺構図

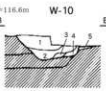




75トレンチ　11号・12号溝跡層序説明

1　黒褐　As-C 多量。締まりややあり。
2　黒褐　As-C 極少量。砂質土ブロック（φ10mm程）若干。
3　暗褐　細かい砂質土多量。
4　黒褐　As-C 多量。締まりややあり。
5　黒褐　As-C 極少量。砂質土少量。
6　黒褐　As-C 極少量。
7　暗褐　細かい砂質土多量。



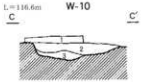


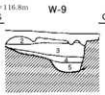
75トレンチ　10号溝跡層序説明（サブトレンチ西壁）

1　黒褐　As-C 極少量。（東壁№1と同一。）
2　黒褐　As-C 極少量。
3　黒褐　As-C 少量。下部やや締まる。（東壁№2と同一。）
4　黒褐　As-C 極少量。

75トレンチ　10号溝跡層序説明（サブトレンチ東壁）

1　黒褐　As-C 極少量。（西壁№1と同一。）
2　黒褐　As-C 少量。下部やや締まる。（西壁№3と同一。）
3　暗褐　As-C 若干。
4　黒　As-C 多量。締まり強い。
5　暗褐　As-C 少量。





75トレンチ　10号溝跡層序説明②

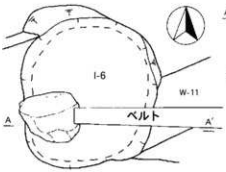
1　黒褐　As-C 多量。締まり強い。
2　黒褐　As-C 多量。
3　黒褐　As-C・砂質土ブロック（φ10mm程）極少量。

75トレンチ　9号溝跡層序説明

1　黒褐　As-B 主体。
2　黒褐　As-C 少量。
3　黒褐　As-C 多量。
4　黒褐　As-C 少量。上部に焼土の堆積が認められる。
5　黒褐　As-C 極少量。

75トレンチ　5号井戸層序説明

1　　As-B二次堆積層。No2,4,6と比べて粒子が細かい。下部に赤色のテフラが堆積。
2　　As-B二次堆積層。特に粒子が細い。
3　黒褐　As-C・炭化物・As-B 少量。
4　　As-B二次堆積層。特に粒子が細い。
5　　As-B二次堆積層。特に粒子が細い。
6　　As-B二次堆積層。特に粒子が細い。



75トレンチ　6号井戸層序説明

1　黒褐　As-B 少量。As-C 極少量。
2　黒褐　As-C・炭化物多量。締まり強い。
3　黒褐　As-C・細かい砂質土極少量。
4　黒褐　As-C・細かい砂質土少量。
5　黒褐　As-C・炭化物多量。
6　黒褐　As-C・砂質土ブロック（φ10mm）極少量。
7　黒褐　As-C 極少量。
8　黒褐　白色土（シルト）少量。シルトブロック（φ10mm）極少量。

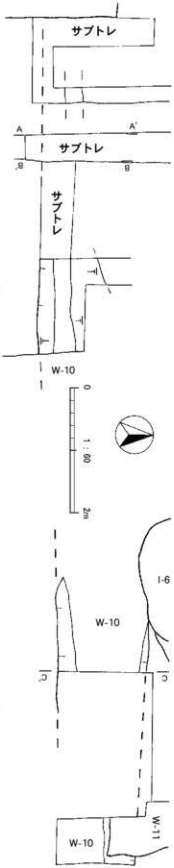


Fig. 21　75トレンチ各遺構(11)

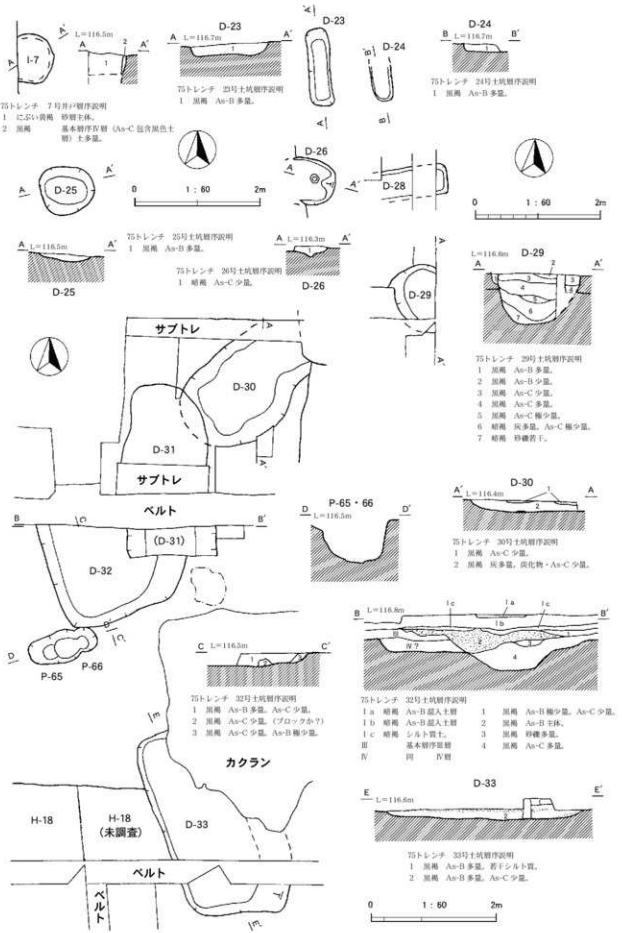


Fig. 22　75トレンチ各遺構⑫

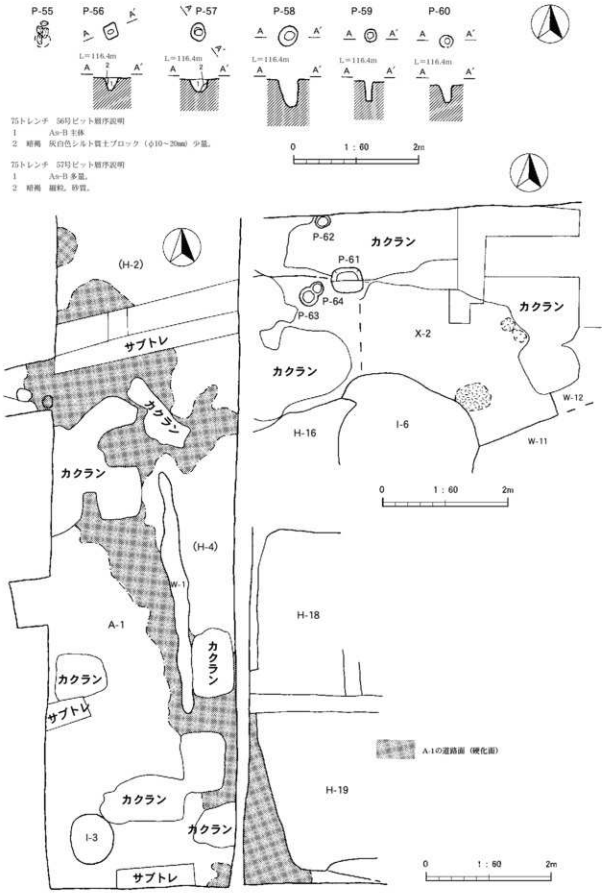


Fig. 23　75トレンチ各遺構(3)

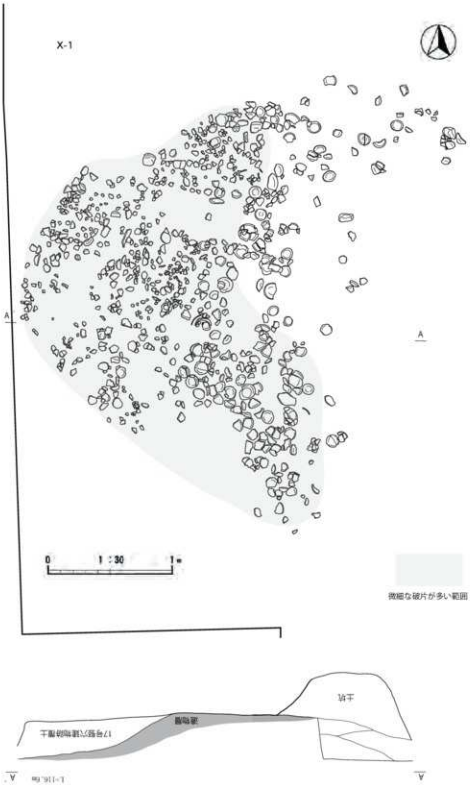


Fig. 24　75トレンチ各遺構図

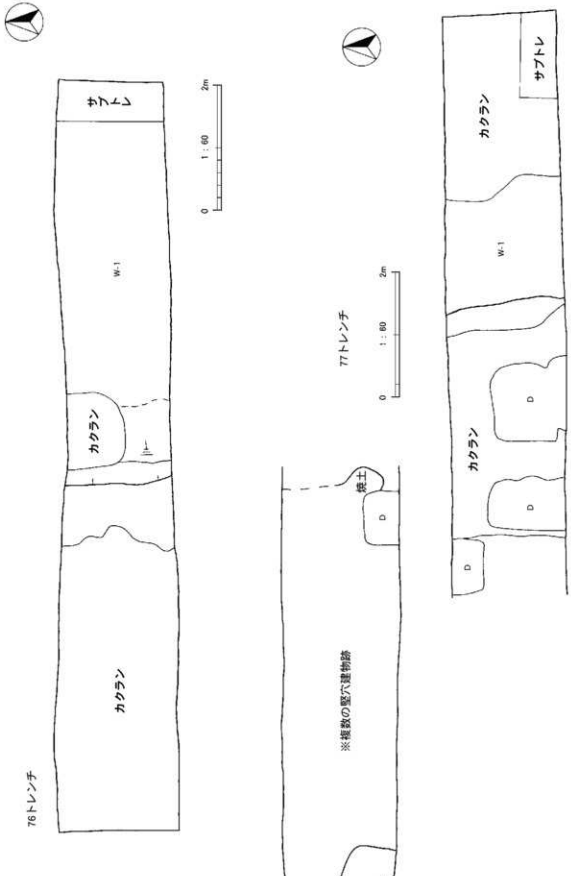


Fig. 25　76・77トレンチ各遺構

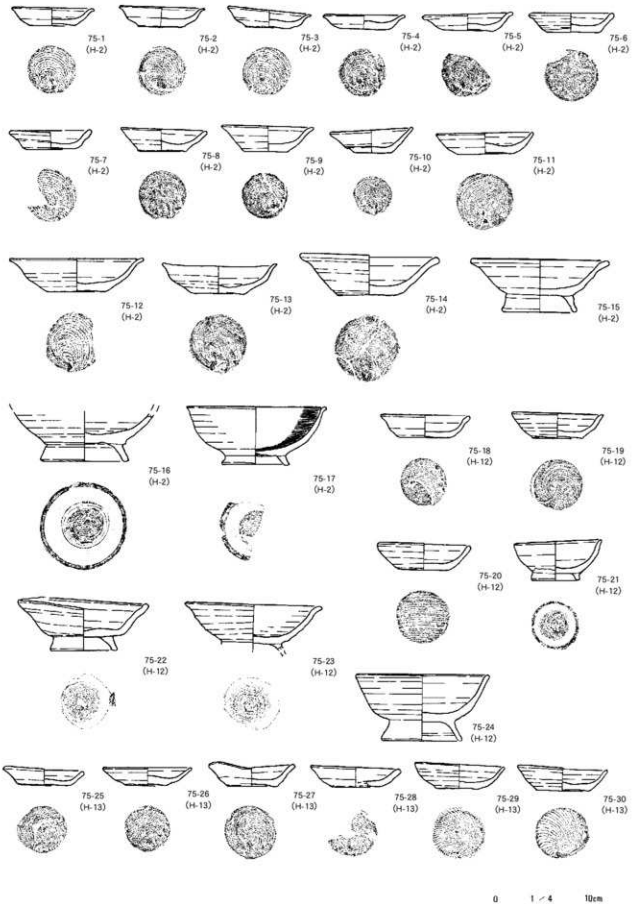


Fig. 26　遺物実測図（75トレンチ①）

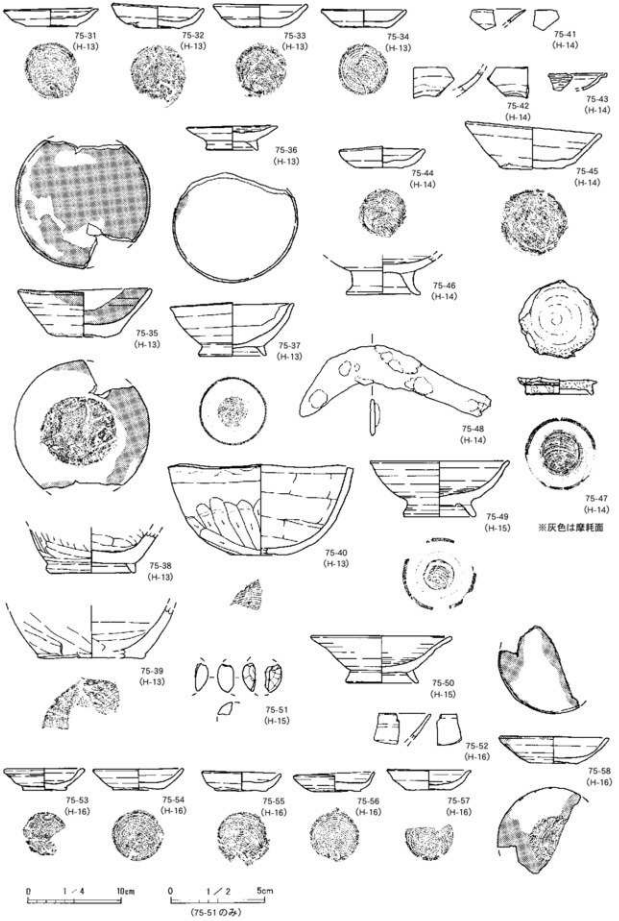


Fig. 27 遺物実測図（75トレンチ②）

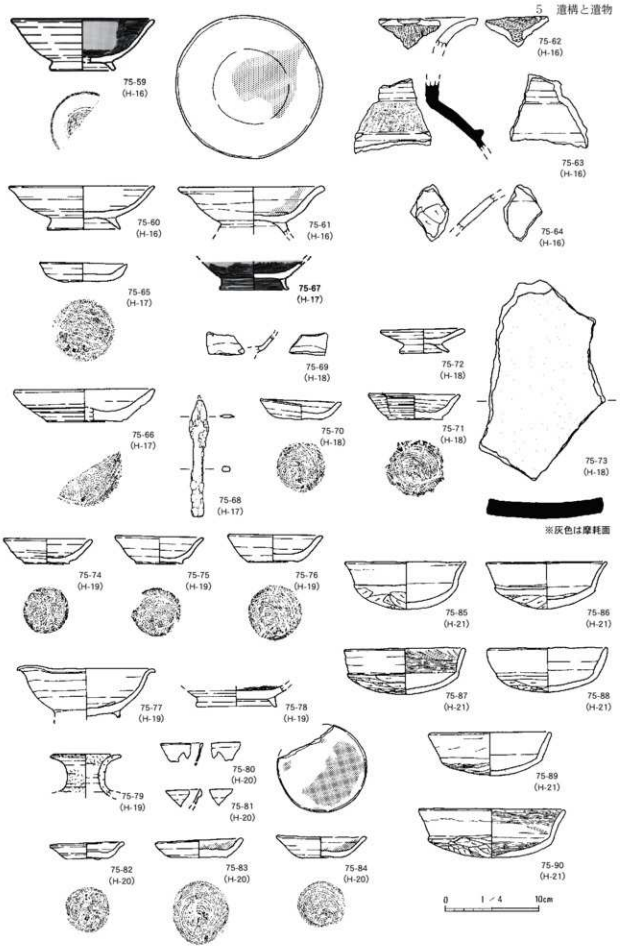


Fig. 28　遺物実測図（75トレンチ③）

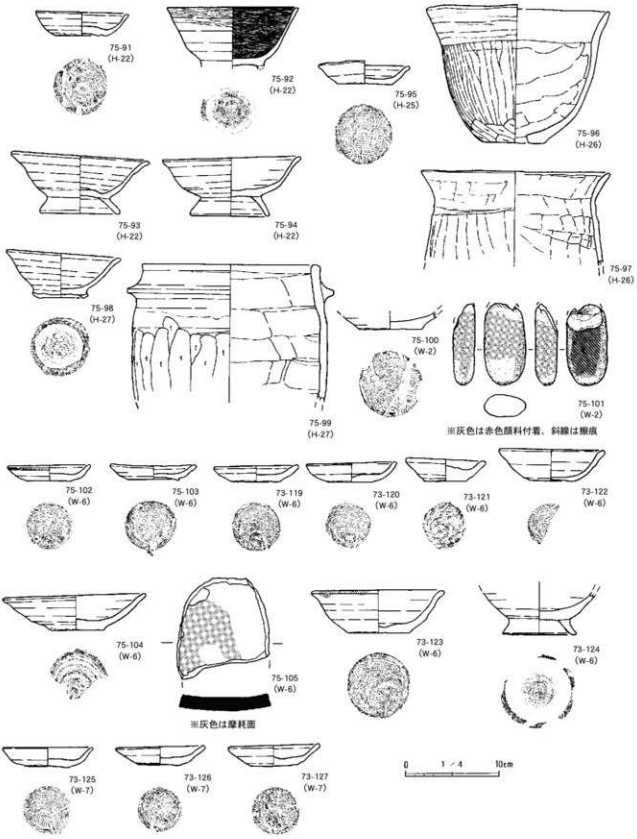


Fig. 29 遺物実測図（75トレンチ④）

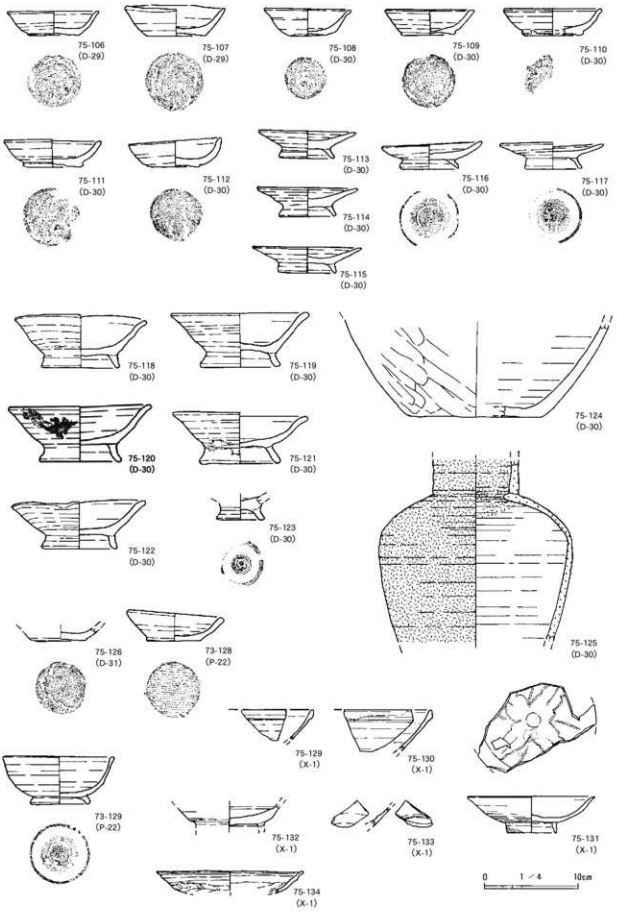


Fig. 30　遺物実測図（75トレンチ⑤）

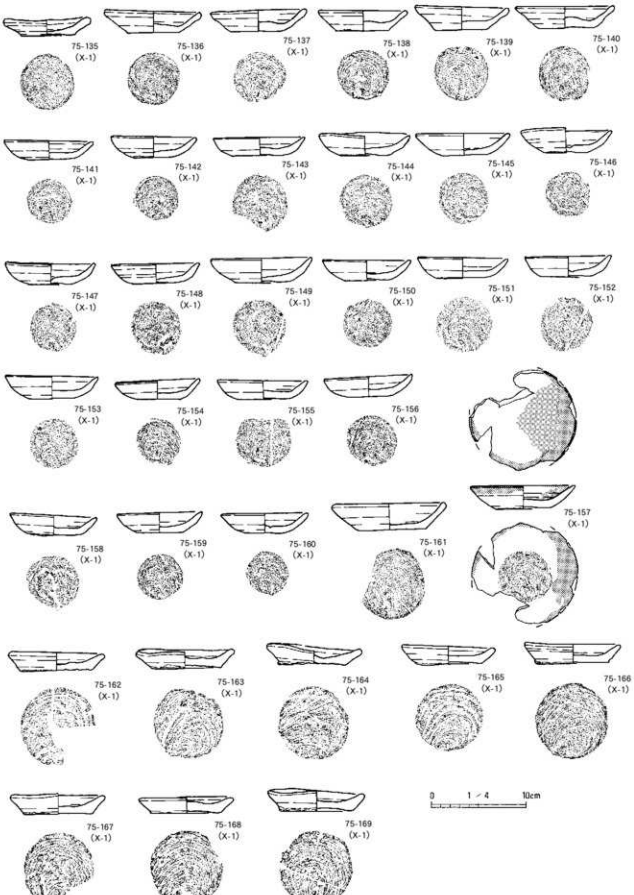


Fig. 31　遺物実測図（75トレンチ⑥）

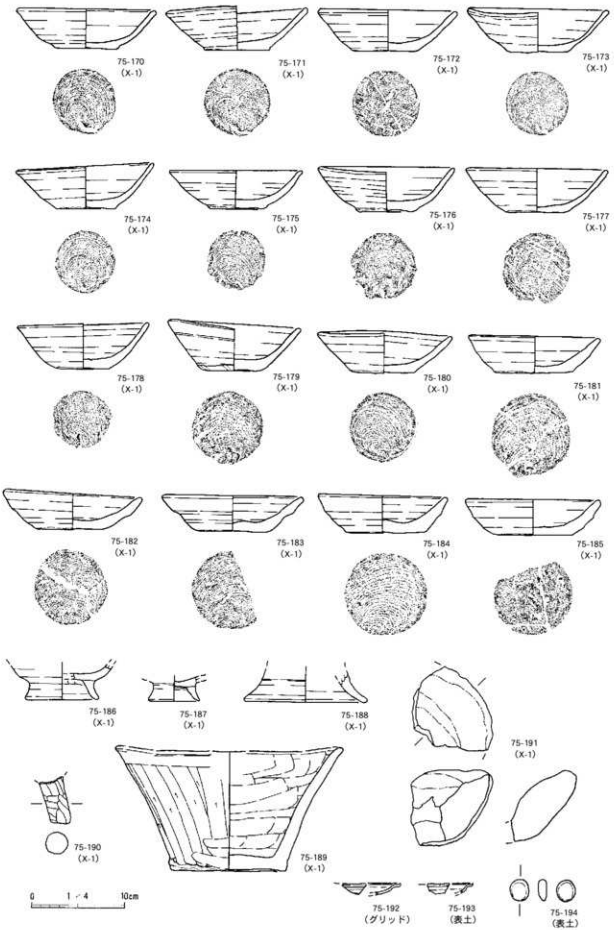


Fig. 32　遺物実測図（75トレンチ⑦）

Tab. 5　竪穴建物跡内ピット・井戸跡・土坑・ピット計測表

75トレンチ

12号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X237　Y220	50.0	38.0	5.0	楕円形	なし。	

13号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X237　Y220	100.0	63.0	16.0	楕円形	土師質土器（坏）破片。	
P_2							欠番(H-12, P_1へ)
P_3	X237　Y219	(44.0)	42.0	16.0	楕円形	酸化焰焼成須恵器（羽釜）破片、土師質土器（土釜、坏・皿）破片。転用土製円盤。	H-16のピットか
P_4	X237　Y219	(41.0)	43.0	20.0	楕円形		H-16のピットか

14号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X238　Y219	60.0	58.0	36.0	円形	酸化焰焼成須恵器（坏）破片。	
P_2	X238　Y219	88.0	62.0	3.0	楕円形	酸化焰焼成須恵器小片。	焼土・炭化物あり。
P_3	X238　Y219	34.0	34.0	24.0	円形	土師質土器（坏）破片。	

16号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X236･237　Y219	82.0	54.0	20.0	楕円形	土師質皿破片。	

19号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X235　Y222	90.0	72.0	26.0	楕円形	酸化焰焼成須恵器（椀）破片。	
P_2	X235　Y222	17.0	17.0	17.0	円形	酸化焰焼成須恵器（椀）破片。	
P_3	X236　Y222	15.0	15.0	10.0	円形	なし。	
—	X236　Y222	46.0	32.0	5.0	楕円形	なし。	1号炉跡

20号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X238　Y221	71.0	71.0	42.0	円形	酸化焰焼成須恵器（椀）・黒色土器小片、土師質土器（坏）破片。	
P_2	X237･238　Y221	15.0	13.0	13.0	円形	なし。	
P_3	X238　Y221	17.0	17.0	15.0	円形	土師質土器小片。	
P_4	X238　Y221	15.0	15.0	45.0	円形	なし。	

21号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X238　Y222	—	—	—	方形か	プラン確認のみのため不明。	
P_2	X236　Y222	40.0	(20.0)	28.5	円形	なし。	

22号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X238　Y222	75.0	50.0	33.0	方形	酸化焰焼成須恵器（椀・羽釜）、黒色土器（椀）破片。	

27号竪穴建物跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
P_1	X237　Y222	50.0	50.0	5.0	方形	酸化焰焼成須恵器（椀・羽釜）破片。	

井戸跡

遺構名	位　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
1－5	X238　Y219	125.0	103.0	(60.0)	円形	須恵器（甕）、土師質土器（皿・坏）破片。	古代。覆土は専ら浅間B軽石（二次堆積）。
1－6	X237･238　Y218	240.0	220.0	(60.0)	円形	須恵器（甕）、酸化焰焼成須恵器（椀）、土師質土器（皿・坏）破片。羽口破片。礎石と考えられる石が出土。	古代。覆土上部に浅間B軽石が堆積。
1－7	X235　Y220	80.0	(75.0)	(35.0)	円形	須恵器・土師器・土師質土器小片。	中世以降。

土坑

遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	出土遺物	備考
D－23	X236	Y218・219	124.0	36.0	20.0	長方形	土師器（甕）、土師質土器（皿・坏）破片。	中世。
D－24	X237	Y219	(55.0)	32.0	12.0	長方形	土師質土器（皿・坏）破片。	中世。
D－25	X237	Y218	90.0	75.0	13.0	楕円形	須恵器・土師器小片、土師質土器（皿・坏）破片。	中世。
D－26	X237・238	Y219	(80.0)	73.0	15.0	楕円形	土師器（甕）、土師質土器（皿・坏・鉢？）破片。	古代。
D－27	X238	Y219	(240.0)	(35.0)	(25.0)	不明	須恵器（甕）、土師質土器（皿・坏）破片。	古代。竪穴建物跡か。
D－28	X235・236	Y217	(110.0)	50.0	20.0	長方形	土師器（甕・坏）、土師質土器（皿・坏）破片。	中世。
D－29	X235・236	Y218	110.0	(85.0)	78.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（坏）、土師質土器（皿・坏）破片。	古代。
D－30	X236	Y219	115.2	72.2	20.0	楕円形	酸化焔焼成須恵器（坏・皿・椀・甕）、灰釉陶器（瓶）破片。鉄製品（釘？）。鉄滓。	覆土に灰多量含む。古代。
D－31	X236	Y219・220	(270.0)	140.0	47.0	楕円形？	土師器（高坏？）、須恵器（蓋・甕）、酸化焔焼成須恵器（羽釜）、黒色土器（椀）、土師質土器（皿・坏）破片。	古代末。
D－32	X235・236	Y220	(184.0)	(215.0)	20.0	方形	打製石斧、平瓦、須恵器（甕・瓶？）、黒色土器（椀）、土師質土器（皿・坏）、灰釉陶器（椀・小片）破片。鉄製品（釘？）。	古代末。
D－33	X236	Y220・221	325.0	180.0	17.0	方形	平瓦、黒色土器（椀）、土師質土器（皿・坏）破片。灰釉陶器小片。	古代末。

ピット

遺構名	位　置		長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P－55	X235	Y219	—	—	—	不明	なし。(礫の集中)	近世以降？
P－56	X238	Y219	23.0	20.0	20.0	方形	なし。	中世。
P－57	X238	Y219	30.0	25.0	20.0	円形	なし。	中世。
P－58	X238	Y219	33.0	28.0	45.0	円形	なし。	中世。
P－59	X238	Y219	20.0	16.0	32.0	円形	なし。	中世。
P－60	X238	Y220	20.0	20.0	30.0	円形	なし。	中世。
P－61	X237	Y217	50.0	40.0	—	楕円形	なし。	時期不明。
P－62	X237	Y217	22.0	20.0	8.5	円形	なし。	時期不明。
P－63	X237	Y217	30.0	(30.0)	—	円形	なし。	時期不明。
P－64	X237	Y217	20.0	20.0	—	円形	なし。	時期不明。
P－65	X235・236	Y220	[85.0]	53.0	(65.0)	円形	なし。	古代。P-66と重複
P－66	X235・236	Y220	[35.0]	38.0	(63.0)	円形	なし。	古代。P-65と重複
P－67	X237	Y220	66.0	50.0	30.0	楕円形	なし。	古代。

Tab. 6　遺物観察表

75トレンチ

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75−1	H−2 覆土	土師質 皿	①［8.7］　②　1.9 ③　5.0	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	15	
75−2	H−2 床直	土師質 皿	①［9.0］　②　2.1 ③　5.0	①細粒　②良好 ③灰白　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	21	
75−3	H−2 床直	土師質 皿	①　8.8　②　2.1 ③　5.0	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	28	
75−4	H−2 床直	土師質 皿	①　8.6　②　1.6 ③　5.1	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	26	
75−5	H−2 覆土	土師質 皿	①［9.5］　②　2.0 ③　5.6	①細粒　②良好 ③灰白　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		aカマド
75−6	H−2 覆土	土師質 皿	①　9.0　②　2.1 ③　5.5	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	2	
75−7	H−2 覆土	土師質 皿	①　8.7　②　2.0 ③　5.4	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75−8	H−2 覆土	土師質 皿	①　9.1　②　2.5 ③　5.1	①細粒　②良好 ③灰白　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	30	bカマド
75−9	H−2 覆土	土師質 皿	①　9.7　②　2.8 ③　4.8	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	27	
75−10	H−2 床直	土師質 皿	①　8.7　②　2.8 ③　4.0	①細粒　②良好 ③橙　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	13	
75−11	H−2 覆土	土師質 皿	①［10.2］　②　2.3 ③　6.0	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内外面の一部に薄く煤付着。	3	
75−12	H−2 覆土	土師質 坏	①［14.1］　②　3.5 ③　6.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	9	
75−13	H−2 覆土	土師質 坏	①［12.2］　②　3.2 ③　5.9	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	14	
75−14	H−2 覆土	土師質 坏	①［14.7］　②　4.5 ③　6.6	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	17 22 23	
75−15	H−2 覆土	土師質 椀	①［14.6］　②　5.5 ③　7.9	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着の後に回転横なでで調整。ただし外面はあまい。	29	bカマド
75−16	H−2 覆土	土師質 椀	①　−　②（5.2） ③　9.3	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	10	
75−17	H−2 覆土	黒色土器 椀	①［14.7］　②　6.1 ③［7.1］	①細粒（中粒含）②良好 ③にぶい橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。器体内面はミガキの後に黒色処理。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	7	
75−18	H−12 床直	須恵器 坏	①［9.4］　②　2.4 ③　4.9	①中粒　②良好 ③橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	4	酸化焔
75−19	H−12 床直	須恵器 坏	①　9.6　②　2.7 ③　5.2	①細粒　②良好 ③明褐　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	13	酸化焔
75−20	H−12 床直	土師質 坏	①　9.8　②　2.8 ③　5.6	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は静止糸切り未調整。	12	
75−21	H−12 床直	須恵器 椀	①　9.2　②　4.3 ③　5.1	①細粒　②良好 ③橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	10	酸化焔
75−22	H−12 床直	須恵器 椀	①13.8　②［5.6］ ③［7.1］	①細粒（中粒含）②良好 ③橙　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。器体内面に煤が薄く付着。	7	酸化焔
75−23	H−12 床直	須恵器 椀	①14.5　②（4.9） ③　−	①中粒　②良好 ③にぶい褐　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	11	酸化焔
75−24	H−12 床直	土師質 椀	①［14.1］　②　7.0 ③　8.5	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。ただし外面はあまい。	3	
75−25	H−13 覆土	土師質 皿	①　8.4　②　1.9 ③　5.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④7/8	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内外面の一部に薄く煤付着。	26	
75−26	H−13 覆土	土師質 皿	①　9.4　②　1.9 ③　4.8	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	23	
75−27	H−13 覆土	土師質 皿	①　9.1　②　2.5 ③　5.5	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	18	
75−28	H−13 覆土	土師質 皿	①　9.5　②　2.2 ③　5.2	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	11	
75−29	H−13 覆土	土師質 皿	①　9.5　②　2.7 ③　5.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	13	
75−30	H−13 床面	土師質 皿	①　9.5　②　2.6 ③　5.7	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	47 48	
75−31	H−13 覆土	土師質 皿	①10.1　②　2.0 ③　5.6	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	44	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—32	H—13 覆土	土師質 皿	①　9.8　②　2.6 ③　6.0	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なでで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	6	
75—33	H—13 覆土	土師質 皿	①10.0　②　2.5 ③　5.2	①細粒(中粒含)②良好 ③にぶい黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	3	
75—34	H—13 覆土	土師質 皿	①　9.0　②　1.9 ③　5.5	①細粒　②良好 ③浅黄　④7/8	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	
75—35	H—13 覆土	須恵器 坏	①14.3　②　5.2 ③　7.7	①細粒　②良好 ③灰黄褐　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内外面の一部に煤付着。	17 21	酸化端
75—36	H—13 床直	土師質 皿	①　9.8　②　2.6 ③　5.5	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④7/8	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	35	
75—37	H—13 覆土	土師質 椀	①13.1　②　5.7 ③　7.2	①細粒　②良好 ③橙　④7/8	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整で高台を接着し回転横なでで調整。器体ない外面に煤が薄く付着。	19	
75—38	H—13 覆土	土師質 鉢	①　—　②(4.8) ③　9.5	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙④底部残	体部外面は縦方向の笠削り。体部内面は横・斜め方向のなでで整形。回転により調整し高台を接着してから横なでで調整。		
75—39	H—13 覆土	土師質 鉢	①　—　②(5.4) ③[11.4]	①細粒　②良好 ③橙　④底部片	体部外面は底部近くを軽く横なで。体部内面は横・斜め方向のなでで整形。底部は回転糸切り未調整。	30	
75—40	H—13 床直	土師質 鉢	①[19.8]　②　9.5 ③[6.2]	①中粒　②良好 ③にぶい褐　④1/4	体部外面は縦方向の笠削りで整形し口縁部を横なでで調整。体部内面は横方向のなでで調整。底部は回転糸切り未調整。	32 34	
75—41	H—14 覆土	白磁 碗	①　—　②(1.5) ③　—	①緻密　②良好 ③灰白　④破片	口縁部付近の破片。		
75—42	H—14 覆土	白磁 碗	①　—　②(2.5) ③　—	①緻密　②良好 ③灰白　④破片	体部下部付近の破片。外面の下部は釉が施されていない。		
75—43	H—14 覆土	土師質 皿	①　—　②(1.7) ③　—	①細粒　②良好 ③橙　④破片	器体は手づくねで整形し体内内面は斜め方向のなでで調整。口縁部は内外面ともに横なでで調整。「て」の字口縁。		
75—44	H—14 床直	土師質 皿	①　9.2　②　2.3 ③　5.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	10	
75—45	H—14 床直	須恵器 坏	①14.6　②　5.0 ③　6.9	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	9 18 19	酸化端
75—46	H—14 覆土	須恵器 椀？	①　—　②(4.1) ③[7.9]	①細粒　②良好 ③橙　④底部・高台部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	1	酸化端
75—47	H—14 床直	灰釉陶器 転用硯	①　8.2　②　8.5 ③　1.9	①細粒　②良好 ③灰白	灰釉陶器の体部を打ち欠いて転用硯としたもの。器体内面中央付近が磨耗。灰釉陶器は回転糸切り（右回転）	13 16	
75—48	H—14 床面	鉄製品 鎌	長(21.0)　幅(3.9) 厚(0.5)	基部を10mm程度直角に折り曲げている。ほぼ完形。		21	
75—49	H—15 床面	須恵器 椀	①[14.8]　②　5.9 ③　7.8	①細粒　②普通 ③にぶい橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し横なでで調整。	2	酸化端
75—50	H—15 床面	須恵器 椀	①[15.1]　②　5.0 ③　7.6	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し横なでで調整。	1	酸化端
75—51	H—15 覆土	石製品 玉	長(1.5)　幅(0.7) 厚(0.7)	水晶製。破片であるが球形に整形されている部分が見られることから玉と考えられる。			
75—52	H—16 覆土	白磁 皿	①　—　②(2.7) ③　—	①緻密　②良好 ③灰白　④破片	口縁部付近の破片。		
75—53	H—16 覆土	土師質 皿	①　8.6　②　2.3 ③　4.6	①細粒(中粒含)②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75—54	H—16 覆土	土師質 皿	①[9.5]　②　2.2 ③　5.4	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75—55	H—16 床直	土師質 皿	①　8.5　②　2.0 ③　5.6	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	6	
75—56	H—16 覆土	土師質 皿	①　8.7　②　2.1 ③　5.2	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75—57	H—16 床直	土師質 皿	①[9.0]　②　2.1 ③　5.0	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	8	
75—58	H—16 覆土	土師質 皿	①[11.8]　②　2.8 ③　5.2	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④2/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内外面に煤が付着。		
75—59	H—16 覆土	須恵器 椀	①[15.1]　②　5.4 ③[6.8]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形の後に、内面のみ磨きで調整。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。		酸化端
75—60	H—16 床直	須恵器 椀	①15.4　②　4.7 ③　7.7	①細粒　②普通 ③にぶい黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	4	酸化端

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④つまみ径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—61	H—16 床直	須恵器 椀	① 15.5 ②（5.2） ③ —	①細粒 ②良好 ③にぶい橙④高台部欠	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。器体内面中央部付近に煤付着。	5	酸化焔
75—62	H—16 覆土	須恵器 甕？	① — ②（3.2） ③ —	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	口縁部付近の破片。外面は縦方向の磨き、内面は横・斜め方向の磨きで調整。		酸化焔
75—63	H—16 覆土	須恵器 四耳壺	① — ②（7.8） ③ —	①細粒 ②良好 ③灰 ④破片	体部から頸部にかけての破片。器体外面はたたきで整形し、凸帯を接着し回転横なでで調整。内面は回転横なでで調整。		
75—64	H—16 覆土	土師質 高坏	① — ②（3.9） ③ —	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	坏部の破片か。器体外面は篦削りで整形。内面は横なでで調整。		
75—65	H—17 覆土	土師質 皿	① 9.3 ② 2.2 ③ 6.0	①中粒 ②普通 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75—66	H—17 覆土	土師質 坏	①[15.0] ② 3.5 ③[8.0]	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。		
75—67	H—17 覆土	黒色土器 椀	① — ②（3.0） ③ 7.3	①細粒 ②良好 ③黒褐④底部から体部	体部・高台部内外面ともにみがきで調整し黒色処理。		
75—68	H—17 覆土	鉄製品 鉄鏃	長(12.3) 幅（2.0） 厚（0.6）	柄部を一部欠損か。			
75—69	H—18 覆土	白磁 椀	① — ②（2.0） ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白 ④破片	底部から体部にかけての部位の破片。		
75—70	H—18 覆土	須恵器 坏	① 8.5 ② 2.2 ③ 5.0	①細粒(中粒含)②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	7	酸化焔
75—71	H—18 床直	須恵器 坏	① 9.6 ② 2.7 ③ 5.8	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	6	酸化焔
75—72	H—18 覆土	須恵器 皿	① 8.9 ② 2.5 ③ 5.2	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。		酸化焔
75—73	H—18 覆土	須恵器 転用硯	長 21.1 幅 13.3 厚 2.3	①中・粗粒 ②良好 ③灰 ④破片？	須恵器大甕の破片を転用硯としたもの。内面が磨耗。	1	
75—74	H—19 覆土	須恵器 坏	① 9.4 ② 2.7 ③ 4.8	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	2	カマド 酸化焔
75—75	H—19 覆土	須恵器 坏	① 9.3 ② 3.0 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③に ぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	カマド 酸化焔
75—76	H—19 覆土	須恵器 坏	① 10.0 ② 3.0 ③ 5.7	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内面・外面に薄く煤が付着。	1	1号ピット 酸化焔
75—77	H—19 覆土	須恵器 椀	①[14.5] ②（5.7） ③ —	①中粒 ②良好 ③橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	2	1号ピット 酸化焔
75—78	H—19 床直	黒色土器 椀	① — ②（2.3） ③[8.5]	①細粒 ②良好 ③橙 ④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形で、内面は磨きで調整し黒色処理。底部は回転横なでで調整の後に高台を接着し回転横なでで調整。	2	
75—79	H—19 覆土	灰釉陶器 瓶	①（7.5）②（4.5） ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④口縁部	頸部から口縁部にかけての破片。体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。	1	
75—80	H—21 覆土	銅製品 銅椀	① — ②（1.9） ③ —	銅製の器の口縁部破片。椀か。			
75—81	H—20 覆土	白磁 椀	① — ②（1.7） ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白 ④破片	口縁部の破片。玉縁口縁。		
75—82	H—20 覆土	土師質 皿	① 7.8 ② 1.9 ③ 4.7	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	
75—83	H—20 覆土	土師質 皿	① 9.3 ② 2.0 ③ 6.0	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内面口縁部に煤付着。		
75—84	H—20 床直	土師質 皿	① 9.5 ② 2.3 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。器体内面に炭熱、煤が薄く付着。	2	
75—85	H—21 床直	土師器 坏	① 12.8 ② 4.9 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④4/5	内面は横なでで整形。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	2	
75—86	H—21 床直	土師器 坏	① 12.7 ② 4.9 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④4/5	内面は横なでで整形。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	3	
75—87	H—21 床直	土師器 坏	① 12.8 ② 4.8 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	内面は横なで整形し、口縁部はみがきで調整。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	5	
75—88	H—21 床直	土師器 坏	① 12.7 ② 4.6 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④完形	内面は横なでで整形。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	4	
75—89	H—21 床直	土師器 坏	① 12.9 ② 4.6 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	内面は横なでで整形。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	6	
75—90	H—21 床直	土師器 坏	① 15.5 ② 5.2 ③ —	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④完形	内面は横なでで整形し、みがきで調整。外面は口縁部を横なで、体部を篦削りで整形。	1	
75—91	H—22 覆土	須恵器 椀	① 9.8 ② 2.5 ③ 5.8	①細粒 ②良好 ③にぶい褐④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	1号ピット 酸化焔
75—92	H—22 覆土	黒色土器 椀	① 13.9 ②（6.5） ③ —	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	器体内外面ともに回転横なでで整形し、内面は全体をみがきで調整し黒色処理。外面は口縁部のみみがき。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	4 5 6 7	1号ピット

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—93	H—22 床直	須恵器 椀	①14.7　②　6.5 ③　8.5	①細粒(中粒含)②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	2	酸化焔
75—94	H—22 覆土	須恵器 椀	①14.6　②　6.4 ③　8.3	①細粒(中粒含)②良好 ③にぶい橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	3	1-号ビット酸化焔
75—95	H—25 床直	土師質 皿	①　9.7　②　2.5 ③　6.0	①細粒　②良好 ③淡黄　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は静止糸切り未調整。	1	
75—96	H—26 床直	土師器 甕	①長19.3，短17.0 ②長 7.0，短 6.3 ③13.8～14.6 孔長2.8，短2.4	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部は内外面ともに横なでで調整。体部外面は縦方向の箆削りで整形し，内面は横方向の箆削りで整形。体部の一部は輪積み痕が観察できる。	1	
75—97	H—26 床直	土師器 甕	①[20.0]　②(　9.8) ③　—	①細粒　②良好 ③黒褐　④破片	口縁部は内外面ともに横なでで調整。体部外面は縦方向の箆削りで整形し，内面は横方向の箆削りで整形。	2	
75—98	H—27 床直	須恵器 坏	①12.2　②　5.0 ③　5.8	①細・中粒　②良好 ③黒褐　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	2	酸化焔
75—99	H—27 床直	須恵器 羽釜	①[18.8]　②(14.5) ③　—	①中粒　②良好 ③にぶい褐　④破片	外面は体部を縦方向の箆削りで整形し，鍔を接着した後に口縁部も含めて回転横なでで調整。内面は横方向の箆なでで整形。	6 7 9 11 12	酸化焔
75—100	W—2 覆土	土師質 皿	①　—　②(　1.9) ③　6.7	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④底部のみ	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。		
75—101	W—2 覆土	石製品 磨石	長(　8.5)　幅(　4.4) 厚(　2.3)	楕円形の円礫の片側先端部が顕著に磨耗している。その他，礫を全周するように赤色顔料（朱か）が付着している。貢岩か。			縄文時代
75—102	W—6 覆土	土師質 皿	①　8.7　②　1.7 ③　4.8	①細粒　②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。外面口縁部に沈線あり。		
75—103	W—6 覆土	土師質 皿	①　9.1　②　1.7 ③　5.4	①細粒　②良好 ③橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	
75—104	W—6 覆土	土師質 坏	①[15.1]　②　3.9 ③[　6.0]	①中粒　②良好 ③橙　④2/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	2	
75—105	W—6 覆土	須恵器 転用硯	長(10.7)　幅(　9.7) 厚(　1.8)	①細粒　②良好 ③灰　④1/2	須恵器大甕の体部の破片を転用したもの。器体中央左よりが磨耗。	3	
75—106	D—29 覆土	須恵器 坏	①　9.6　②　2.5 ③　5.5	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。内面に薄く煤が付着。		酸化焔
75—107	D—29 覆土	須恵器 坏	①10.6　②　3.2 ③　6.0	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	3	酸化焔
75—108	D—30 覆土	須恵器 坏	①　9.2　②　2.9 ③　4.4	①細粒　②良好 ③橙　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	酸化焔
75—109	D—30 覆土	土師質 坏	①　9.4　②　2.8 ③　5.6	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	14	
75—110	D—30 覆土	土師質 坏	①[10.4]　②　2.9 ③[　6.4]	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整。	49	
75—111	D—30 覆土	土師質 坏	①10.3　②　3.0 ③　6.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	36	
75—112	D—30 覆土	土師質 坏	①　9.8　②　3.1 ③　5.3	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。内面の一部に薄く煤が付着。	23	
75—113	D—30 覆土	須恵器 皿	①10.2　②　2.9 ③　5.8	①細粒　②良好　③にぶい黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	5	酸化焔
75—114	D—30 覆土	須恵器 皿	①10.7　②　3.2 ③　6.1	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	11	酸化焔
75—115	D—30 覆土	須恵器 皿	①[11.6]　②　2.7 ③　6.2	①細粒　②良好 ③灰黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	46	酸化焔
75—116	D—30 覆土	須恵器 皿	①10.6　②　2.8 ③　6.2	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	47	酸化焔
75—117	D—30 覆土	須恵器 皿	①10.9　②　2.8 ③[　6.0]	①細粒　②良好 ③8Y白　④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は静止糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	41	酸化焔
75—118	D—30 覆土	須恵器 椀	①13.9　②　5.6 ③　8.2	①細粒　②良好 ③灰黄褐　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	15 16 65	酸化焔
75—119	D—30 覆土	須恵器 椀	①14.6　②　5.7 ③　8.4	①細粒　②良好 ③灰黄褐　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	17 18 22 69 72	酸化焔

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④つまみ径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—120	D—30 覆土	須恵器 椀	① 15.1 ② 6.0 ③ 8.6	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なでで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。体部にタール状の物質が付着。	37 39 51 74 75 76	酸化焔
75—121	D—30 覆土	須恵器 椀	① 14.2 ② 5.5 ③ 8.6	①細粒 ②良好 ③灰黄 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	61	酸化焔
75—122	D—30 覆土	須恵器 椀	① 14.1 ② 5.2 ③ [8.0]	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は高台を接着し回転横なでで調整。	13	酸化焔
75—123	D—30 覆土	須恵器 器種不明	① — ②(2.5) ③ [5.0]	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	底部から高台にかけての破片。底部は回転横なでで整形し、高台を接着した後に回転横なでで調整。		酸化焔
75—124	D—30 覆土	須恵器 甕	① — ②(10.1) ③[13.8]	①細粒 ②普通 ③黒褐④底部から体部	底部から体部にかけての破片。体部および底部外面は斜め方向の笠削りで整形しなでで調整。内面は回転横なでで整形。底部内面は指でのなでで調整。	4	酸化焔
75—125	D—30 覆土	灰釉陶器 長頸瓶	① — ②(19.3) ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④体部から頸部	体部・頸部内外面ともに回転横なでで整形。肩部外面のみ回転笠削りでも整形。頸部と体部は別で作り接合。	3 38 62 73	
75—126	D—31 覆土	土師質 皿	① — ②(1.4) ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③橙 ④底部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。体部は意図的に敲打で打ち落としているかも。		
73—128	P—22 覆土	土師質 皿	① 10.2 ② 3.3 ③ 5.7	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は静止糸切り。	2	73T 補遺
73—129	P—22 覆土	須恵器 椀	① 11.7 ② 5.1 ③ 6.3	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。内面口縁部に薄く煤が付着。	1	酸化焔 73T 補遺
75—129	X—1 覆土	白磁 碗	① — ②(3.3) ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白 ④破片	口縁部の破片。玉縁口縁。	117	
75—130	X—1 覆土	白磁 碗	① — ②(4.4) ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白 ④破片	口縁部の破片。玉縁口縁。	199	
75—131	X—1 覆土	白磁 皿	①[13.5] ② 3.9 ③ 5.3	①緻密 ②良好 ③灰白 ④1/2	器体内面に櫛描きで花文を施す。	8 9 21	
75—132	X—1 覆土	白磁 碗	① — ②(2.6) ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白④底部から体部	底部の破片。底部の縁の一部と高台は打ち欠かれている。	695	
75—133	X—1 覆土	白磁 皿	① — ②(2.3) ③ —	①緻密 ②良好 ③灰白 ④破片	底部から体部にかけての部位の破片。	399	
75—134	X—1 覆土	白色土器 皿	①[15.6] ②(2.3) ③ —	①細粒 ②良好 ③灰白 ④体部から口縁部	口縁部から体部にかけての破片。口縁部内外面および体部内面はなでで調整。手づくねで製作か。	6 172	
75—135	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.1 ② 1.8 ③ 5.7	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	64	Ⅲ Ⅰ 類
75—136	X—1 覆土	土師質 皿	① 10.1 ② 2.5 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	43	Ⅲ Ⅰ 類
75—137	X—1 覆土	土師質 皿	①[10.0] ② 2.3 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	145	Ⅲ Ⅰ 類
75—138	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.4 ② 2.2 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④4/5	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	221	Ⅲ Ⅰ 類
75—139	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.8 ② 2.6 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	122	Ⅲ Ⅰ 類
75—140	X—1 覆土	土師質 皿	①[10.4] ② 2.3 ③ 5.6	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	161	Ⅲ Ⅰ 類
75—141	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.3 ② 2.1 ③ 4.5	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	93	Ⅲ Ⅱ 類
75—142	X—1 覆土	土師質 皿	① 8.9 ② 2.3 ③ 4.5	①中粒 ②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	27	Ⅲ Ⅱ 類
75—143	X—1 覆土	土師質 皿	①[9.5] ② 1.9 ③ 5.8	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さいくぼみあり。	13	Ⅲ Ⅱ 類
75—144	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.5 ② 2.4 ③ 5.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	16	Ⅲ Ⅱ 類
75—145	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.9 ② 2.3 ③ 5.0	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	178	Ⅲ Ⅱ 類
75—146	X—1 覆土	土師質 皿	① 9.5 ② 2.5 ③ 4.6	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	79	Ⅲ Ⅱ 類

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径　④つまみ径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—147	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.4　②　2.3 ③　4.9	①中粒　②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	196	皿Ⅱ類
75—148	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.3　②　2.1 ③　5.3	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	113	皿Ⅱ類
75—149	X—1 覆土	土師質 皿	①10.6　②　2.7 ③　5.8	①中粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	421	皿Ⅱ類
75—150	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.2　②　2.3 ③　4.9	①中粒　②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	264	皿Ⅱ類
75—151	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.4　②　2.4 ③　5.8	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	358	皿Ⅱ類
75—152	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.0　②　2.3 ③　5.4	①中粒　②良好　③にぶい黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	259	皿Ⅱ類
75—153	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.7　②　2.5 ③　5.0	①中粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	263	皿Ⅱ類
75—154	X—1 覆土	土師質 皿	①　8.9　②　2.2 ③　4.6	①中粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さく浅い凹あり。	232	皿Ⅱ類
75—155	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.4　②　2.1 ③　5.4	①中粒　②良好 ③にぶい橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	170	皿Ⅱ類
75—156	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.2　②　2.3 ③　5.2	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	233	皿Ⅱ類
75—157	X—1 覆土	土師質 皿	①11.0　②　2.4 ③　5.7	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。内外面口縁部に煤が付着。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	127	皿Ⅱ類
75—158	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.1　②　2.3 ③　5.2	①中粒　②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	657	皿Ⅱ類
75—159	X—1 覆土	土師質 皿	①　8.9　②　2.2 ③　4.9	①中粒　②良好 ③橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	223	皿Ⅱ類
75—160	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.1　②　2.1 ③　4.3	①中粒　②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	215	皿Ⅱ類
75—161	X—1 覆土	土師質 皿	①11.9　②　2.9 ③　7.2	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	208 222	皿Ⅱ類
75—162	X—1 覆土	土師質 皿	①10.0　②　2.0 ③　7.8	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	19 44	皿Ⅲ類
75—163	X—1 覆土	土師質 皿	①10.3　②　2.1 ③　7.4	①中粒　②良好 ③にぶい橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	20	皿Ⅲ類
75—164	X—1 覆土	土師質 皿	①10.0　②　2.3 ③　7.1	①中粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	28	皿Ⅲ類
75—165	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.8　②　2.2 ③　7.0	①中粒　②良好 ③にぶい黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	89	皿Ⅲ類
75—166	X—1 覆土	土師質 皿	①10.1　②　2.2 ③　7.7	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	95	皿Ⅲ類
75—167	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.9　②　2.2 ③　7.3	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	212	皿Ⅲ類
75—168	X—1 覆土	土師質 皿	①　9.8　②　1.7 ③　7.6	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④5/6	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	183	皿Ⅲ類
75—169	X—1 覆土	土師質 皿	①10.1　②　2.3 ③　7.6	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	205	皿Ⅲ類
75—170	X—1 覆土	土師質 坏	①[14.8]　②　4.2 ③　6.8	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	3	坏Ⅰ類
75—171	X—1 覆土	土師質 坏	①15.0　②　4.7 ③　7.1	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	80 182	坏Ⅰ類
75—172	X—1 覆土	土師質 坏	①[14.8]　②　4.5 ③　7.0	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	98	坏Ⅰ類
75—173	X—1 覆土	土師質 坏	①[15.0]　②　4.7 ③　6.6	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	254	坏Ⅰ類
75—174	X—1 覆土	土師質 坏	①14.6　②　4.8 ③　6.4	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	211	坏Ⅰ類

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④つまみ径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
75—175	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.1 ② 4.2 ③ 6.3	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	100	坏Ⅰ類
75—176	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.5 ② 4.8 ③ 6.7	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	198	坏Ⅱ類
75—177	X—1 覆土	土師質 坏	① 15.0 ② 4.7 ③ 7.1	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	200	坏Ⅱ類
75—178	X—1 覆土	土師質 坏	① 13.9 ② 5.0 ③ 5.9	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	143	坏Ⅱ類
75—179	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.1 ② 5.4 ③ 7.4	①中粒 ②良好 ③橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	101	坏Ⅱ類
75—180	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.4 ② 4.4 ③ 7.1	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	357	坏Ⅱ類
75—181	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.0 ② 4.1 ③ 8.4	①中粒 ②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	132	坏Ⅲ類
75—182	X—1 覆土	土師質 坏	① 14.8 ② 4.2 ③ 7.8	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	107	坏Ⅲ類
75—183	X—1 覆土	土師質 坏	①[15.0] ② 3.8 ③ 8.2	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/2	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	169	坏Ⅲ類
75—184	X—1 覆土	土師質 坏	① 13.8 ② 4.2 ③ 8.6	①中粒 ②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	329	坏Ⅲ類
75—185	X—1 覆土	土師質 坏	①[14.4] ② 3.8 ③ 8.5	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（左回転）未調整。	185	坏Ⅲ類
75—186	X—1 覆土	土師質 椀	① — ②（3.8） ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④底部	底部付近の破片。内外面ともに回転横なでで整形。底部は高台を接着し横なでで調整。器体外面に薄く煤が付着か。	209	
75—187	X—1 覆土	土師質 椀？	① — ②（2.6） ③[5.4]	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④底部	底部の破片。内外面ともに回転横なでで整形。底部は高台を接着し横なでで調整。底部内面中央に小さい凹あり。	246	
75—188	X—1 覆土	土師質 高坏	① — ②（3.5） ③[13.2]	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④脚部破片	脚部下位の破片。内外面ともに回転横なでで整形。	180	
75—189	X—1 覆土	土師質 鉢	①[24.3] ②13.2 ③12.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	口縁部は内外面ともに横なでで調整。体部外面は縦方向の箆削り。内面は横なでで整形。底部外面は一方向のなで。内面は器形をなぞるようななでで調整。内面に薄く煤付着か。	337 513 613	
75—190	X—1 覆土	土師質 器種不明	長 5.0 幅 3.3 厚 2.4	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④破片	器の脚部と考えられる。箆削りで整形し、なでで調整。	118	
75—191	X—1 覆土	石製品 不明	①（8.7）②（8.0） ③ —	鉢状の石製品の破片。外面はノミで整形。内面はなめらかで茶色に変色。多孔質の安山岩製。		108	
75—192	グリッド	土師質 皿	① — ②（1.2） ③ —	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	器体はそぐわで整形し、体部内面と口縁部内外面を横なでで調整。「て」の字口縁。		X237 Y217
75—193	表土	土師質 皿	① — ②（1.1） ③ —	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	器体はそぐわで整形し、体部内面と口縁部内外面を横なでで調整。「て」の字口縁。		Ⅰb層一括
75—194	表土	石製品 碁石	長 2.3 幅 2.1 厚 1.0	石材不明（緻密な黒色の貝岩？）の円礫。			Ⅰb層一括

73トレンチ（令和２年度調査補遺）

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径 ④つまみ径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
73—119	W—6 覆土	土師質 皿	① 9.0 ② 1.8 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	1	
73—120	W—6 覆土	土師質 皿	① 9.5 ② 2.2 ③ 4.8	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凹あり。	7	
73—121	W—6 覆土	土師質 皿	① 8.5 ② 2.5 ③ 4.4	①細粒 ②良好 ③にぶい橙④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転か）未調整。	4	
73—122	W—6 覆土	須恵器 皿	①[11.2] ② 3.3 ③[4.3]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転か）未調整。	2	酸化焔
73—123	W—6 覆土	須恵器 坏	① 14.0 ② 4.5 ③ 6.7	①雲中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。口縁部から体部内面にかけて煤が付着。	8	酸化焔
73—124	W—6 覆土	須恵器 椀	① — ②（4.5） ③[7.9]	①細粒 ②良好 ③橙④高台部から体部	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り未調整で高台を接着し回転横なでで調整。	5	酸化焔
73—125	W—7 覆土	土師質 皿	① 9.5 ② 2.1 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。	1	
73—126	W—7 覆土	土師質 皿	① 9.5 ② 2.2 ③ 4.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	2	
73—127	W—7 覆土	土師質 皿	① 9.7 ② 2.4 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	体部・口縁部内外面ともに回転横なで整形。底部は回転糸切り（右回転）未調整。底部内面中央に小さい凸あり。	3	

6　まとめ

(1)　令和３年度調査から見る宮鍋神社周辺の様相

令和３年度調査の調査は、令和２年度に調査した73トレンチの検討課題の確認を目的としている。まとめとして、各課題に対する調査所見を述べたい。

①75トレンチ内に布地業を採用した礎石建物跡は存在するか。

73トレンチにおいて布地業の礎石建物跡（SB035）が検出された。この礎石建物跡は掘込地業の方位や構造の特徴から、宮鍋神社周辺で数多く検出されている礎石建物跡や掘立柱建物跡の一群の範疇で捉えることができるものであった。この礎石建物跡から南へ40m程平行に移動した位置に元総社蒼海遺跡群（136）の布地業の礎石建物跡（SB033）が存在する。この２棟の礎石建物跡の中間付近で同様の礎石建物の存在が想定されたが、結果として礎石建物は確認できなかった。75トレンチの調査後に実施された、元総社蒼海遺跡群（136）の西に隣接する元総社蒼海遺跡群（146）８区の調査でSB033と規模・方位・掘込地業の構造も同様の布地業の礎石建物跡が検出された（SB036）。これらの状況から、SB033とSB036は同軸の並びで建てられているが、SB035は方位こそ同じであるものの、規模にも差があり、この２棟とは建物の列が異なることも想定される。

②73トレンチで検出されたピット列は75トレンチ内では認められたか。

73トレンチでピット列が検出されているが、このピット列は直角に東へ折れ、調査区外へと続いていた。75トレンチの調査でこのピット列の延伸の検出に努めたが、その延伸で65・66号ピットが検出されたのみで、それより東でピットは検出されなかった。65・66号ピットから南へ曲がることも考えられるが、そこから南では18号・19号竪穴建物跡となっており、仮にピットが存在していたとしてもその検出は困難であろう。

③73トレンチで検出された道路跡と溝跡の行方。

73トレンチでは側溝状に平行する溝（４号・５号溝跡）と、その上位で道路（１号道路跡）が確認され、さらに道路の両側には若干距離をおいて浅間Ｂ軽石が堆積する溝状の遺構（２号・３号溝跡）が確認された。75トレンチの調査では２号溝跡の延伸の確認を行ったが、75トレンチ内では幅が広がり、かつＹ220ラインの手前で途切れた。しかし、その南で31号・32号・33号土坑と浅間Ｂ軽石の堆積が覆土中に確認できる遺構が途切れ途切れに確認された。この検出状態から２号溝跡は側溝状の溝ではなく長大な形状の窪みのような遺構であると考えられ、また、覆土に浅間Ｂ軽石を含む31号・32号・33号土坑は不連続であるが点々と続く同様の窪みとして受け止めたい。なお、75トレンチでは20号竪穴建物跡や６号井戸跡の覆土上部には浅間Ｂ軽石の純層が堆積していたほか、５号井戸跡は二次堆積ではあるが浅間Ｂ軽石により埋没していた。宮鍋神社周辺で覆土の下部に浅間Ｂ軽石の堆積が確認できた例は皆無に等しく、むしろ埋没が進んだ遺構（窪み）に浅間Ｂ軽石の堆積が認められる。こうした状況は宮鍋神社周辺における浅間Ｂ軽石降下時の様相を推し量る上での材料となり得ると考えられる。

④新たに検出された溝跡について。

75トレンチの調査では、溝跡が何条か検出されている。

11号溝跡は75トレンチ内では走行が官衙関連遺構の一群と近似している点や、時期的にも古いことが考えられ、この東側に隣接する元総社蒼海遺跡群（65）の調査でも遺構番号が付されていないが、その延伸が確認されている。蒼海（65）では東西方向に走行を持っている状況から、全体を俯瞰すると、11号溝跡は緩い弧状に走るものと見るべきであろうか。掘削の意図を詳らかにすることができないが、古代の溝として留意が必要と思われる。また、10号溝跡についても、その延伸で73トレンチ２号道路跡が確認されている。75トレンチの調査では２号道路に直結する遺構が確認できなかったが時期的にも近いことから、同一の遺構として捉えることも可能かもしれない。

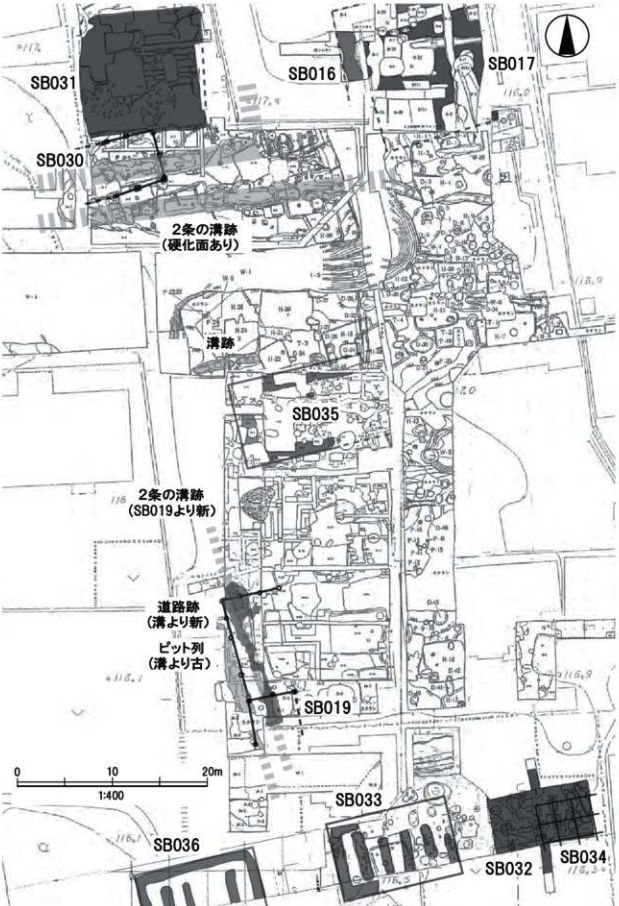


Fig. 33　宮鍋神社周辺の様相

(2)　10世紀以降の遺構・遺物について

①11世紀代の竪穴建物跡について

宮鍋神社周辺では、礎石建物跡が廃絶した後、竪穴建物が構築されている。これらの竪穴建物は早くとも10世紀代に構築されているが、それら竪穴建物の中には床面に熱を受けたスポット（以下本文中では被熱スポットと呼称する）が認められるものが複数存在する。これら竪穴建物の床面で認められた被熱スポットに着目して分類を試みたところ、以下のような傾向が認められた（Fig. 34）。

Ⅰ類：竪穴建物はカマドを竪穴建物の南東隅付近に設け、被熱スポットは竪穴建物の中央もしくはそれよりも南に認められる。大きさも直径20cm程度で、その部分が浅く窪む例も認められる。

Ⅱ類：竪穴建物にカマドを認めることができず、被熱スポットの位置や規模について共通点はない。

これら竪穴建物に残された被熱スポットは何の痕跡なのかという点であるが、まずは鍛冶遺構が頭に浮かぶ。これら竪穴建物からは覆土から羽口の破片が出土する以外では、鍛冶遺構としての性格を物語る遺物の出土は認められない。特にⅠ類については被熱スポットが小規模であり、鍛冶関連遺物も出土しないことから、積極的に鍛冶工房と評価するのは難しいと考えられる。ちなみに、各竪穴建物の時期は多少ばらつきがあるものの、傾向としてⅠ類の竪穴建物が11世紀前半で、Ⅱ類の竪穴建物が11世紀後半と考えられることから、Ⅰ類よりもⅡ類のほうが新しいと考えられる。そうした場合、竪穴建物内におけるカマド以外の火を扱う設備（例えば炉のようなもの）の位置や規模がその時期によって変化していると受け止めるのが妥当なのであろうか。「炉」としての性格を考えたとき、これら被熱スポットでは床が赤く焼けているのみで、灰や炭化物の堆積や分布が認められる例が非常に少ないのも事実である。

結局のところ、被熱スポットの性格について位置づけが難しい状況であるが、11世紀代の竪穴建物に特徴的に残る生活痕であることは間違いないので、その性格の解明も含めて、今後留意する必要があろう。

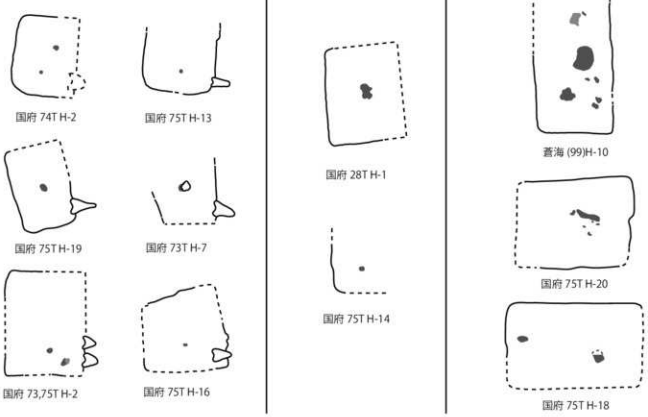


Fig. 34　床に被熱スポットを持つ竪穴建物跡

②１号遺物集中とその出土遺物について

ⅰ．１号遺物集中の概要

１号遺物集中は東西4.0m、南北4.0mの半円形の範囲に遺物が散乱・堆積した状態で検出された。遺物は浅いくぼみに堆積しており、くぼみの縁部分が薄く、底へと向かっていくに従い厚く堆積している状況が確認できた。その厚さは最大20cmに達する。なお、このくぼみは埋没途中の17号竪穴建物と考えられる。

１号遺物集中から出土した遺物は土師質土器がほとんどである。その器種は皿・坏が大部分を占め、その他には鉢、椀、高坏が若干出土している。土師質土器以外では、それらとは明らかに胎土の異なる白色の素焼きの土器（白色土器か）の皿の破片が１点出土しているほか、白磁の破片が若干出土している。石製品では鉢状の形状をした石製品の破片が出土している。なお、１号遺物集中の南約70mの地点に位置する元総社蒼海遺跡群（95）９号井戸跡からも同様に多量の土師質土器が出土している（前橋市教育委員会　2015）。

ⅱ．１号遺物集中の出土遺物について

前述のとおり、１号遺物集中からは、土師質皿・坏などの土師質土器が多量に出土している。

皿・坏としたものについては、器形が坏状の土器のうち、おおむね器体の直径が10cm、高さ６cm以下のものを皿とし、器体の直径・高さがそれを上回るものを坏と分類した。なお、元総社蒼海遺跡群（95）９号井戸跡の出土品については、ここで皿と分類したものを坏とし、ここで坏と分類したものを椀としている。これら皿・坏について、ともに三種類に大別した。元総社蒼海遺跡群（95）９号井戸跡の出土品についても同様の傾向（分類）であった（前橋市教育委員会　2015）。以下に元総社蒼海遺跡群（95）の分類に準じながら各特徴を記す。

皿Ⅰ類：底部と体部の境が明瞭。体部から口縁部にかけては外反する。口唇部は整形により丸みをおびる。

皿Ⅱ類：底部と体部の境が不明瞭。体部から口縁部にかけては外反するが、口縁部は直立気味に調整。

皿Ⅲ類：底部は平らで他よりも大きく、体部から口縁部が短く厚い。

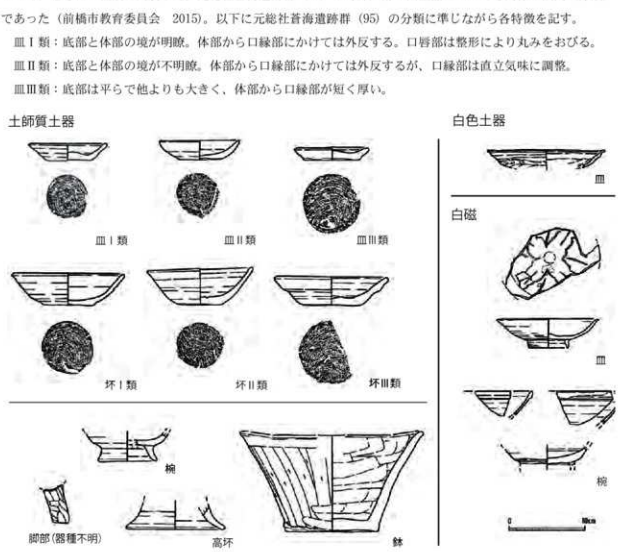


Fig.35　１号遺物集中の遺物

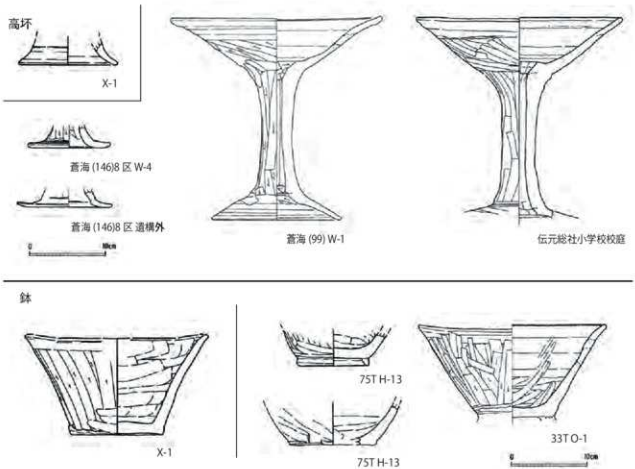


Fig. 36　土師質土器高坏と鉢

坏Ⅰ類：底部と体部の境が明瞭。体部から口縁部にかけて外反する。

坏Ⅱ類：底部と体部の境が不明瞭。体部から口縁部にかけて外反する。

坏Ⅲ類：底部と体部の境が不明瞭。体部から口縁部にかけて外反するがⅠ・Ⅱ類よりも器高は低く、体部は口縁部の下で段をもつ。

胎土、焼成、底部の状態に着目すると、皿Ⅰ類・Ⅱ類および坏Ⅰ類・Ⅱ類は胎土が細粒もしくは中粒、黄橙色系の色調で、底部は右回転糸切りが多く、皿Ⅲ類、坏Ⅲ類は胎土が中粒、橙色系の色調で、底部は左回転糸切りが多い。そうした点では上記６種では、皿Ⅰ類・Ⅱ類および坏Ⅰ類・Ⅱ類と、皿Ⅲ類、坏Ⅲ類に大別できる。

次にその他の土師質土器の器種のうち、特徴的な器種である高坏と鉢について以下に述べたい。

上野国府推定地で出土した土師質土器の高坏については、白色で土師質の坏部穿孔の高坏が代表的である。１号遺物集中から出土した高坏は脚端部付近の破片であるが、坏部穿孔の高坏よりも小型で、脚端部付近の整形方法や形状も異なる。このタイプに似た高坏が宮鍋神社周辺に位置する元総社蒼海遺跡群（146）８区の４号溝跡（中世）と遺構外から出土している。

鉢型の土器については、宮鍋神社周辺において上野国府33トレンチの１号落ち込みから酸化焔焼成須恵器の鉢が出土しているほか、上野国府75トレンチの13号竪穴建物の覆土から破片が２点出土している。33トレンチ１号落ち込み出土の鉢は高台をもち、底部は回転横なでで調整している。75トレンチ13号竪穴建物出土の鉢は33トレンチ１号落ち込み出土と同様のもの１点、回転糸切り未調整で高台を持たないもの１点である。１号遺物集中のものは底部に高台をもたず、底部全体が手づくねのような仕上がりとなっている。ただし、器形や体部・口縁部の整形や調整は共通している。なお、33トレンチ１号落ち込みと75トレンチ１号遺物集中出土の鉢は、内面が薄く煤けている。内面の調整が雑な点や、薄く煤けているものが確認できる点から、容器として使用するよりも、

器体内側で火を焚く行為を行ったものと考えられる。

ⅲ．まとめ

皿などの遺物を多量に廃棄した遺構については、古代から中世への移行期である平安時代末期頃に饗宴の際の食器を大量に廃棄して形成されたことが知られている。１号遺物集中や蓜海（95）９号井戸跡もこうした遺構として理解することができる。これらの遺構が形成された時期は浅間Ｂ軽石降下直前の頃と考えられ、その頃の宮鍋神社周辺では、竪穴建物も確認できない（建物の痕跡が検出できないだけなのか。）。この遺物集中（廃棄遺構）を遺した人々は、土師質土器の皿や坏を多量に使用する饗宴を催せる立場の階層であったことが想像され、そうした人々は平安時代後期頃の上野国府に何等かの形で関係していたと考えられる。宮鍋神社周辺では遺物集中（廃棄遺構）のほかに坏部穿孔の高坏、「て」の字口縁の皿、緑釉陶器、白磁、碁石状の石製品など、平安時代後期に特徴的な遺物が多く出土する。今回のまとめでは深く考察することができなかったが、こうした遺物・遺構の検討が上野国府終末期とも言うべき11世紀・12世紀の様相を知るうえで重要であると考えられる。

(3) まとめ

これまでの調査結果に令和３年度調査成果を踏まえて、以下のようにまとめたい。

宮鍋神社周辺で礎石建物跡によって構成される施設の存在が明らかとなってきた。この周辺では未調査の部分もあり、同時並行で実施されている元総社蓜海遺跡群の調査でも礎石建物跡が毎年のように検出されている。こうした建物跡のさらなる検出と、この施設の様相の解明に努めたい。あわせて倉庫群廃絶後である平安時代後期の様相について、特筆される遺物のほかに遺構の観点からもアプローチができれば当該時期の上野国府の様相に迫ることができるであろう。

上野国府の調査も着々と成果を積み重ねることができ、ついに、検出された官衙関連遺構の検討ができるまでになった。それでも相変わらず課題も多く抱えている。調査・検討の結果、上野国府の様相がこんなにも解ってきました。と報告できる日が必ず来ると感じられる。そのためにもこの調査と日々の検討の積み重ねが大事だとも常々感じる。

最後ではありますが、この調査の遂行にあたっていろいろな面でご理解、協力を惜しまない地元元総社町の皆様をはじめとして、関係者の皆様、末筆ではありますが大変厚く感謝申し上げます。

【主要参考文献】

伊野　近富　1995　「土師器皿」『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編　真陽社
奈良県立橿原考古学研究所　2003　『興福寺旧境内－県分庁舎建設に伴う調査－』奈良県文化財調査報告書第78集
前橋市教育委員会　2016　『推定上野国府～平成26年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅳ
前橋市教育委員会　2017　『推定上野国府～平成27年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅴ
前橋市教育委員会　2021　『推定上野国府～令和元年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅸ
前橋市教育委員会　2022　『推定上野国府～令和２年度調査報告～』上野国府等範囲内容確認調査報告書Ⅹ
前橋市教育委員会　2015　『元総社蓜海遺跡群（91）、元総社蓜海遺跡群（95）、元総社蓜海遺跡群（102）』
前橋市教育委員会　2016　『元総社蓜海遺跡群（65）』
前橋市教育委員会　2016　『元総社蓜海遺跡群（99）』
前橋市教育委員会　2019　『元総社蓜海遺跡群（127）』
前橋市教育委員会　2020　『元総社蓜海遺跡群（136）』
前橋市教育委員会　2023　『元総社蓜海遺跡群（146）』
八重樫忠郎・高橋一樹編　2016　『中世武士とかわらけ』高志書院

写　真　図　版

1　75トレAs-B混入土分布状態（北から）

2　75トレンチ23号土坑全景（東から）

3　75トレンチ24号土坑全景（東から）

4　75トレンチ28号土坑全景（北から）

5　75トレンチ７号井戸跡全景（北から）

6　75トレンチ２号溝跡全景（北から）

1　75トレ2号溝跡南端部土層堆積（南東から）

2　75トレ33号土坑全景（東から）

3　75トレ31号土坑土層堆積（南西から）

4　75トレ33号土坑土層堆積（北西から）

5　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態①（北から）

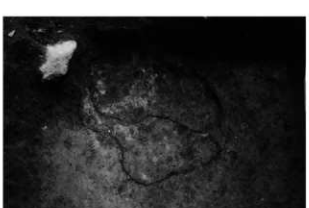
6　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態②（西から）

7　75トレ32号・33号土坑間遺物出土状態③（東から）

1　75トレンチ調査区北半全景（上が北）

2　75トレンチ2号竪穴建物跡カマド（西から）

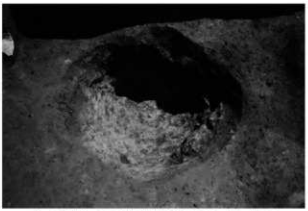
3　75トレンチ12号竪穴建物跡カマド（西から）



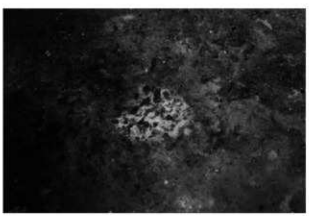
4　75トレンチ12号竪穴建物跡 P_1（北から）

5　75トレンチ13号竪穴建物跡カマド（西から）

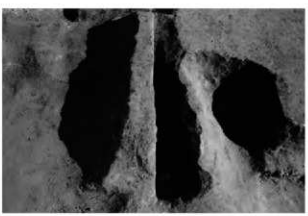
1　75トレンチ13号竪穴建物跡P_3・P_4（北西から）



2　75トレンチ14号竪穴建物跡P_1（北から）



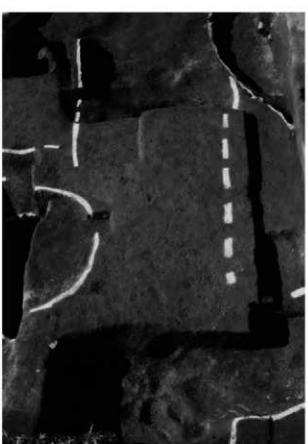
3　75トレンチ14号竪穴建物跡炉跡（北から）



4　75トレンチ16号竪穴建物跡カマド（西から）

5　75トレンチ16号竪穴建物跡P_1（東から）

6　75トレンチ67号ピット全景（南から）



7　75トレンチ10号溝跡全景（東から）

1　75トレンチ11号溝跡全景（東から）

2　75トレンチ12号溝跡全景（北から）

3　75トレンチ5号井戸跡全景（東から）

4　75トレンチ6号井戸跡全景（東から）

1　75トレンチ6号井戸跡土層堆積状態（南から）

2　75トレンチ26号土坑全景（北から）

3　75トレンチ29号土坑全景（北西から）

4　75トレンチ30号土坑遺物出土状態（西から）

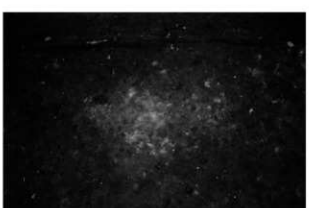
5　75トレンチ調査区南半全景（上が北）

1　75トレンチ４号竪穴建物跡全景（南から）

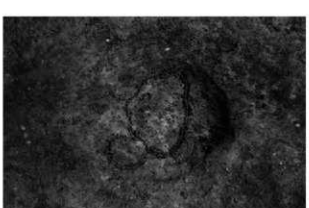
2　75トレ18号・20号竪穴建物跡全景（西から）

3　75トレ18号・19号・25竪穴建物跡全景（西から）

1　75トレ20号・22号竪穴建物跡全景（西から）

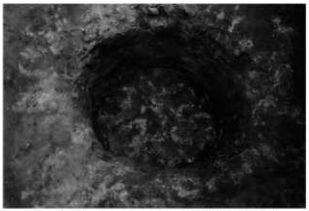


2　75トレ18号竪穴建物跡床面焼土（南から）



3　75トレ19号竪穴建物跡炉跡（西から）

4　75トレ20号竪穴建物跡床面（東から）



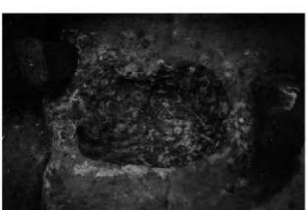
1　75トレ20号竪穴建物跡 P_1 全景（西から）

2　75トレ21号竪穴建物跡調査状況（西から）

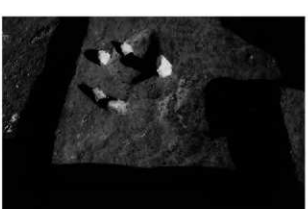
3　75トレ21号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）

4　75トレ21号竪穴建物跡のカマドの痕跡（西から）

5　75トレ23号・24号竪穴建物跡全景（西から）



6　75トレ22号竪穴建物跡 P_1 全景（西から）



7　75トレンチ27号竪穴建物跡全景（西から）

1　75トレンチ27号竪穴建物跡遺物出土状態（西から）

2　75トレンチ65・66号ピット全景（北から）

3　75トレ1号道路跡全景（北から）

4　76トレンチ全景（西から）

5　77トレンチ全景（西から）

75-3

75-6

75-14

75-21

75-23

75-29

75-31

75-38

75-40

75-44

75-49

75-53

75-60

75-65

75-70

PL. 12

75-74

75-77

75-83

75-84

75-91

75-93

75-95

75-98

75-103

75-106

75-109

75-113

75-120

75-125

75-132

75-131-1

75-131-2

75-136

75-139

75-149

75-153

75-163

75-173

75-174

75-176

75-178

75-182

75-184

75-188

75-189

抄　録

フリガナ	スイテイコウズケコクフ
書名	推定上野国府
副書名	令和３年度発掘調査報告書
シリーズ名	上野国府等範囲内容確認調査報告書
シリーズ番号	11
編著者名	阿久澤智和
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853　群馬県前橋市総社町三丁目11-4
発行年月日	20230322

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
スイテイコウズケコクフ 推定上野国府	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町2105-1ほか	10201	3A147	36°23′20″ ～ 36°23′23″	139°02′08″ ～ 139°02′10″	20210531 ～ 20220314	357㎡	範囲内容確認調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
推定上野国府	集落	古墳	竪穴建物跡２	土師器、須恵器	
	官衙	奈良、平安	竪穴建物跡16、溝跡６、井戸跡２、土坑、ピット、遺物集中１	須恵器、灰釉陶器、黒色土器、土師質土器、白色土器、白磁、石製品、鉄製品	土師質土器の皿等を大量に廃棄した遺物集中を検出した。
	集落	中世	溝跡１、井戸跡１、土坑、ピット	陶磁器等	蒼海城の堀跡

上野国府等範囲内容確認調査報告書XI

推定上野国府　令和３年度調査報告

2023年３月17日　印刷
2023年３月22日　発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課
印刷／朝日印刷工業株式会社